

レハナリト理論ヲ以テスレハ或ハ然ルモ我國ノ民度ヨリ之ヲ考フ
 レハ其罰ハ宜ク寛ナラシムヘシ是ヲ以テ某議官ハ務メテ罰ヲ加ヘ
 サルヲ優レリトスト極論セリ思フニ若シ罰ヲ加ヘサルナレハ必シ
 モ本案ヲ要セス苟モ本案ヲ要ストナレハ罰文ヲ具セサル可ラス科
 料ノ最下限ヲ五錢ト爲サントスルノ說ハ一理ナキニ非サレトモ元
 來罰則ハ稅則ト異ニシテ犯者ナカラシムル爲メニ設クルナレハ強
 テ寛ニセサルモ可ナリ現問題ノ二十錢ト云フハ蓋シ此カ爲メナラ
 シ又某議官ハ刑法ヲ動カス可ラスト云フモ其刑法第四百三十條ニ
 據リ地方ノ罰例ニ委スルト云フニ至テハ五十歩百歩ノ論ノミ故ニ
 現問題ニ可決センコトヲ望ム

○六番 柴原

本官ハ過刻モ陳述セシ如ク本案ノ犯則者ハ宜ク刑法第

四百三十條ニ據リ地方ノ罰例ニ委スヘキナリ内務省ノ上申書ニ刑
 法第四百二十六條ニ間擬スル明文ヲ載セタルモ蓋シ當然ニ此ニ間
 擬スル能ハスト思量セシニ由ルナラン然ラサレハ何ソ斯ル明文ヲ
 掲クルヲ要センヤ然ルニ内閣ニ於テ此明文ヲ削リシハ第四百三十
 條ニ據ラシムルノ意ナラン十九番ノ說ク如ク本案ノ犯則者ハ第四
 百二十六條第四項ニ該當スト爲セハ第四百三十條ニ據ル能ハス故
 ニ宜ク罰則ヲ附スヘキモ本官ハ斷シテ此ニ該當セスト信ス過刻以
 來熟考スルニ現問題ニ第二條ヲ計ヘサルハ殊ニ明備ヲ欠クヲ覺フ
 發議者ハ事實ヲ稽查スルノ困難ナル爲メニ之ヲ計ヘスト云フモ第
 一條ノ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシト言
 ヘルモ同一ニ非スヤ故ニ若シ罰則ヲ附スルナレハ第二條ヲモ舉數

セサル可ラス且其二十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ト爲スハ苛酷ナリトス若シ刑法第四百二十九條ノ例ニ倣ヒ五錢以上五十錢以下ノ科料ト爲スニ止メハ或ハ可ナラン到底本會ハ原案ニ可決スルヲ望ム

○四十四番 三浦安

時機已ニ後レタレトモ内閣委員ニ質問セン内閣ニ於テ内務省ノ上申セシ罰則ヲ削レルハ本案ノ犯則者ヲ視テ刑法第四百二十六條第四項ニ該當セス第四百三十條ニ據リ地方ノ罰例ニ委ス可シト爲スニ在ル歟將タ此ニ該當スルモ地方ノ罰例ニ委スルヲ得ルト爲スニ在ル歟

○番二番 水野外

善カナ問ヒヤ傳染病豫防規則ハ患者ニ接近スルヲ禁シ又其衣服排泄物ノ處分方等ヲ示セルニ止マリ天然痘ノ流行スル

トキハ種痘ス可シト云フ如キ明文ヲ載セス故ニ内務省ノ上申書ニモ故サヲニ刑法第四百二十六條第四項ヲ適用スルコトヲ明示セシナリ然ルニ内閣ノ之ヲ削レルハ此ニ該當セス且此ニ間擬スルハ苛酷ナリ宜ク第四百三十條ニ據リ地方ノ罰例ニ委スヘシト爲スニ由ルナリ

○四十四番 三浦安

領會ス然レトモ十九番モ云フ如ク痘瘡ハ六種傳染病ノ其一ナレハ本案ノ違犯者ト傳染病豫防規則ノ違犯者ト何ノ異ナルカ之レ有ラン痘瘡ハ幸ニ豫メ之ヲ種ユルヲ得ルヲ以テ早ク之ヲ種ユルヲ要ス若シ虎列刺病モ之ヲ種エテ果シテ生命ヲ救フヲ得ハ亦之ヲ種ユルヲ要スルナル可シ内閣ニ於テ本案ノ違犯者ヲ傳染病豫防規則ノ違犯者ト同視セスト爲スハ恐クハ誤マレルナラン本

官ハ斷然ニ第四百二十六條第四項ニ該當スト信スルヲ以テ必ス罰則ヲ附セサル可ラス然ラサレハ裁判官ノ必ス此ヲ適用スルヲ恐ルナリ然レトモ内閣委員ニシテ該當セスト明言セル以上ハ是レ一大問題ニ係ル因テ尙ホ議論一定セサルナラハ本官ハ特ニ調査委員ヲ置キ果シテ該當スルヤ否ヤノ調査ヲ之ニ付託セント欲スルナリ

○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ラントス

○四十四番 三浦安

本官ハ建議ヲ爲ス本案ハ傳染病豫防規則ノ範圍ニ入ルヤ否ヤヲ決セサレハ問題ノ可否ヲ斷スル能ハス因テ調査委員ヲ置キ第九條以下ノ調査ヲ付託センコトヲ望ム

○二十三番 渡邊清

刑法第四百二十六條第四項ニ「健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則」云云ト言ヘルニ非スヤ然レハ則

チ何ヲ苦ミテ本案ノ此ニ該當セサルヲ疑ハン斯ノ如キ明白ナル事項ニ關シテ調査委員ヲ置クハ本官ノ甚タ好マサル所ナリ又既ニ第四項ニ該當スル以上ハ四十四番ノ說ノ如ク第四百三十條ニ據ル能ハス然リ而モ本案ノ違犯者ヲ他ノ傳染病豫防規則ノ違犯者ト同罪ニ處スルハ苛酷ナリトス因テ本官ハ過刻陳辨セシ如ク地方官ノ細則ニ委シテ犯則者ヲ未然ニ防キ且務メテ寛假スルヲ望ムナリ

○議長 時晷已ニ午ニ近キヲ以テ午餐ノ爲メニ散會セン

午前第十一時五十五分開場 午後ハ會議ヲ罷メリ

元老院會議筆記明治十八年十月十二日

○第四百九十一號議案種痘規則第二讀會十月二日續會

議長東久世通禧

出席議官

- | | | |
|-----|----|----|
| 二番 | 小畑 | 美稻 |
| 三番 | 長岡 | 護美 |
| 五番 | 上杉 | 茂憲 |
| 六番 | 柴原 | 和 |
| 七番 | 本田 | 親雄 |
| 十番 | 由利 | 公正 |
| 十二番 | 鍋島 | 幹 |

十七番	田中芳男
十八番	津田出
十九番	箕作麟祥
二十一番	橋口兼三
二十二番	中島錫胤
二十三番	渡邊清
二十四番	壬生基修
二十五番	細川潤次郎
二十六番	西周
二十七番	鍋島直彬
二十九番	神山郡廉

三十番	楠本正隆
三十一番	大久保一翁
三十二番	久我通久
三十三番	神田孝平
三十六番	福原實
三十七番	榎村正直
三十八番	海江田信義
三十九番	津田真道
四十番	官本小一
四十二番	楫取素彦
四十三番	田邊太一

- 四十四番 三浦 安
- 四十五番 大鳥 圭介
- 四十六番 町田 久成
- 四十七番 安藤 則命
- 四十八番 岩村 定高
- 五十一番 林 友幸
- 五十二番 伊丹 重賢
- 五十三番 村田 保
- 五十四番 西村 貞陽
- 五十五番 黒田 清綱
- 五十六番 何 禮之

- 五十七番 井田 讓
- 五十八番 長松 幹
- 内閣委員番外一番 参事院議官 安場 保和
- 同 番外二番 参事院議官補 水野 遵

午前第九時五十分開場

○議長 本日ハ第四百九十一號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク

○五十三番村田保 本官ハ前會ニ於テ第八條ノ次ニ新ニ第九條ヲ加フ

ル修正說ヲ提出シ其文案ハ「第一條第二條第四條第五條第六條及
 第八條ヲ犯シタル者ハ二十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス」ト
 云フニ在リテ幸ニ問題ニ上ホレリ然ルニ内閣委員ハ科料ノ事ニ關
 シ二十錢ヲ最下限ト爲スハ重キニ過ク若シ五錢ヲ最下限ト爲サハ

内閣ニ於テモ満足セント云ヒ六番ハ第二條ヲ罰則ノ外ニ置クハ穩當ナラスト云ヘリ本官ノ第二條ヲ罰例ノ外ニ置キシハ主務省ノ上申案ニ從ヒタルモ六番ノ説ヲ聞キテ熟考セシニ第二條ヲ計ヘ入ルノ可ナルヲ覺リ又科料ノ最下限モ五錢ト爲スノ可ナルヲ覺レリ故ニ前説ハ一旦議場ノ問題ト爲レルモ既ニ其非ヲ知ルヲ以テ本日ハ之ヲ收銷シ更ニ改メテ修正文案ヲ提出ス其文案ハ前數條ニ記載シタル規則ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處スト爲ス是レナリ前會ニ某議官ハ種痘ハ刑法第四百二十六條第四項ニ該當スルヲ以テ別ニ本案ニ罰則ヲ立ツルヲ要セス若シ之ヲ立レハ刑法ノ効力ヲ薄弱ナラシメント論セリ是レ一理ナキニ非サレトモ十七年十二月第三十一號布告火藥取締規則ノ如キハ刑法第四百

二十五條ニ「規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者」規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者「官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者」人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者」等ヲ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スル明文アルニ拘ラス別ニ罰則ヲ設ケリ其他十七年第三十二號布告爆發物取締罰則ノ如キ十七年第一號布告賭博犯處分規則ノ如キ亦其的例ト爲ス故ニ本案ニ罰則ヲ設クルモ決シテ刑法ノ効力ヲ薄弱ナラシムルトノ望慮ヲ要セサルナリ請フ各位ノ本修正説ヲ賛成センコトヲ

○四十四番 三浦安

本官ハ前會ニモ五十三番ノ提出セシ修正説ヲ賛成

セシニ本日更ニ穩安ナル修正説ヲ提出セルヲ以テ改メテ之ヲ賛成ス

○五十二番 伊丹重賢

本官モ五十三番ノ改メテ提出セシ修正説ヲ賛成セントスルモ聊カ質疑ヲ要スル有リ従前ノ罰例ヲ見ルニ最下限ヲ五錢ト爲セハ最上限ハ五十錢ト爲セル者ノ如シ刑法第四百二十九條ニモ「左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處スト言フ未タ最下限ヲ五錢ト爲シ而シテ最上限ヲ一圓五十錢ト爲セル前例アルヲ見ス但タ罰金ニハ二圓以上百圓以下ト爲セル成例アルヲ記臆スルノミ本官ハ元來二十錢以上一圓二十五錢以下ト爲スヲ是認スレトモ今先ツ五錢以上一圓五十錢以下ト爲セル理由ヲ質問シ併セテ一言センニ前會ニ内閣委員ハ本案ニ罰則ヲ加ヘサルハ

地方ノ便宜ニ委スルニ在リト云ヘリ是レ本案第十條ニ讓ルナル可キモ刑法第四百三十條ニ「前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス」ト言ヒ而シテ十四年八月太政官第七十七號達及ヒ同年十一月内務省番外達ヲ以テ刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定ムルトキハ内務司法兩省ニ届出ツ可キ旨ヲ明示セリ然ルニ本案ノ如キハ只内務卿ニ届出ヲ爲サシムルノミヲ以テシテハ妥當ナラサルナリ

○五十三番 村田保

五十二番ニ答フ五十二番ハ最下限ヲ五錢ト爲セハ最上限ヲ五十錢ト爲ス可キニ一圓五十錢ト爲スハ何ノ故ソト云ヘリ本官ハ五錢乃至一圓九十五錢ノ間ニ在テハ何様ニ區分スルモ毫

モ妨ケ無シト信ス今此議場ニ於テ縣名ヲ明言スル能ハサレトモ現ニ某縣ニ於テ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處セル例ヲ記憶ス

○六番 柴原和

五十三番ハ現問題ヲ收銷シテ更ニ修正說ヲ提出セント云ヘリ本官ハ前會ニ於テ第二條ヲ罰例ノ中ニ計ヘサルヲ不可トシ第三讀會ニ至ラハ之ヲ計ヘ且科料ノ金額ヲ改メテ最下限ヲ五錢ト爲シ最上限ヲ五十錢ト爲ス可シト豫陳シタレトモ原案ノ如クシテ刑法第四百二十六條若クハ第四百三十條ニ讓ルモ妨ケ無シト思惟セリ然ルニ本日五十三番ノ改メテ提出セシ修正說ハ前會ニ提出セシ修正說ニ比スレハ妥穩ニシテ本官ノ意思ニ合スレトモ假令數日間ヲ隔ツルニモセヨ他人ノ論說ヲ聞キテ其理アルニ感シ既ニ問題

ト爲レル修正說ヲ收銷シテ更ニ修正說ヲ提出スル如キ例ヲ啓カハ轉變シテ底止スル所ヲ知ラサルニ至ル可シ故ニ現問題ノ決ヲ取り少數ニシテ消滅セハ更ニ修正說ヲ提出スルハ妨ケ無キモ現問題未決ノ中ニ其說ヲ改メント云フハ非ナリ五十三番ノ虚心平氣ナルハ感スルニ餘リ有ルモ今ニシテ前說ヲ收銷スルヲ許セハ前會以來ノ辨論ハ水泡ニ歸セントス故ニ斯ノ如キ請求ハ議長ノ許容セサルナラントハ信スレトモ聊カ一辨スルコト爾リ

出席

十四番

野村 素介

○二十五番 細川潤次郎

此事タル泰西諸國ノ議事規則ニ明文ヲ存スルノミナラス本院ノ議事條例ニモ明文ヲ存スル有リ假令一議官ノ修正說タリトモ他ノ議官ノ之ヲ賛成シ議長ノ之ヲ議場ノ問題ト爲シタ

ル以上ハ發議者一己ノ私有物ニ非スシテ議場ノ公共物タレハ之ヲ
收銷スルニモ亦必ス議場ニ問フテ之ヲ決ス可キナリ本院ノ議事條
例ハ至テ簡短ナル者ナレトモ既ニ其明文ヲ存シ且慣例ノ在ル有ル
ヲ以テ議長ノ處置必ス此ニ出ツ可キヲ信ス

○六番柴原和 本官ノ記臆スル所ヲ以テスレハ一議官ノ修正動議ヲ發
セシニ其文案ヲ誤讀セル等ヨリ收銷ヲ請求スル有ルトキハ議長ハ
別ニ議場ニ問ハスシテ收銷ヲ許セル前例ヲ記臆スルモ未タ曾テ他
ノ議官ノ說ヲ聞キ其修正文案ヲ變改スル前例ヲ記臆セス本官等時
ニ或ハ修正說ヲ提出シ而ル後チ他ノ議官ノ論說ヲ聞キ心中ニ其論
說ヲ是認スル有ルモ既ニ自說ニシテ議場ノ問題ト爲レル以上ハ已
ムヲ得ス前說ヲ主持スルハ往往ニ之レ有リ本日若シ五十三番ノ請

求ヲ許ストキハ後來實ニ底止スル所ヲ知ラサル可シ

○議長 五十三番ニ問フ改メテ提出セントスル修正文案ハ如何ン

○五十三番村田保 前數條ニ記載シタル規則ニ違背シタル者ハ五錢以
上。一圓五十錢以下ノ科料ニ處スト爲スニ在リ

○十九番箕作麟祥 五十三番ハ前會ニ提出セシ修正說ヲ收銷シ改メテ提
出セント云フ本官ハ之ヲ許スモ支障スル無カル可シト思考ス然レ
トモ之ヲ許スヤ否ヤハ暫ク擱キ發議者又ハ前說ノ賛成者ニ對シ質
問ヲ要スル有リ發議者賛成者ハ本案ヲ看テ刑法第四百二十六條ニ
關係スル有リト做スヤ將タ全ク彼レト別視スルヤ又本案ニ罰則ヲ
設クルハ種痘ヲ傳染病ト看做スモ刑法第四百二十六條ノ罰則ニ問
擬スルハ嚴酷ナリトシテ別ニ罰則ヲ設ケント要スルヤ將タ全ク彼

レト交渉スル無シトスルヤ又若シ處罰法ヲ刑法第四百三十條ニ讓ルトキハ地方官ノ處分法ノ一定ニ出テサルヲ恐レ此ニ罰則ヲ設ケントスルヤ又本案ハ九年五月内務省甲第十六號布達天然痘豫防規則ノ相續法タルニ異ナル無キモ豫防ノ文字ヲ掲ケサルヲ以テ之ヲ觀レハ全ク傳染病豫防規則ト關係スル無キヤ請フ之ヲ説明セヨ

○五十三番 保村田

十九番ノ質問ニ關シテハ前會ニモ種種ノ論議出タ

レトモ本官ハ本案ヲ視テ刑法第四百二十六條ニ該當スルヤ否ヤヲ論定スル能ハサル者ト做ス何トナレハ本案ヲ發布スル以前ニ在テハ種痘ノ一事ハ刑法第四百二十六條ニ關係セサル者ノ如クナレハナリ現行規則即チ九年内務省甲第十六號布達天然痘豫防規則第八條ニ「違式註違ヲ以テ論シ罰金ヲ科スヘシ」トノ明文ヲ掲クルヲ以

テ今日ニ在テハ十四年第七十二號布告ニ依テ處分スル者ト爲レリ故ニ曰フ本案ヲ視テ刑法第四百二十六條ニ該當スルヤ否ヤヲ論定スル能ハサル者ト做スト

○四十四番 三浦安

十九番ノ質問ニ對シ一言セン本官ハ發議者タル五

十三番ト見解ヲ異ニシ本案ハ刑法第四百二十六條第四項ニ該當スル者ト信ス本案ニ豫防ノ文字ハ之レ無キモ刑法第四百二十六條第四項ニハ「健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者」ト言ヘリ本案ハ即チ豫防ノ爲メニ設ケタル者ニシテ此規則ニ違背シタルハ傳染病豫防規則ニ違背シタルト同一ノ犯罪ニ係リ共ニ刑法第四百二十六條第四項ニ該當スト信スルナリ然レトモ刑法第四百二十六條第四項ノ科料ハ重キニ過ルヲ以テ稍

ヤ寛和セン爲メニ五十三番ノ修正説ヲ賛成セシナリ前會ニ在テモ本官ハ十九番ノ辨論ニ對シ本案ハ刑法第四百二十六條ノ範圍内ニ在リト明辨セリ原來種痘ノ一事ハ刑法第四百二十六條ヲ離ル可ラサル者ト思惟ス

○四十五番 大鳥圭介 論議多端ニ涉ルヲ以テ聊カ意見ヲ陳ヘ併セテ建議ヲ爲サン本官ハ五十三番ト同ク天然痘ノ一事ハ刑法第四百二十六條第四項ノ傳染病云云ノ部中ニ入ル可キモ種痘ノ一事ハ刑法第四百二十六條ニ關涉ス可キニ非スト信ス然レトモ若シ問題ニシテ未タ定マラサルトキハ許多ノ論議モ或ハ無効ニ歸ス可キヲ以テ速ニ五十三番ノ前修正説ノ收銷ヲ許スヤ否ヤヲ決定センコトヲ望ム

○議長 各官モ聞ク如ク五十三番ハ前會ニ提出セシ修正説ヲ收銷シ本日更ニ修正説ヲ提出セント發言セリ前説ハ既ニ議場ノ問題ト爲レルヲ以テ改メテ後説ノ提出ヲ許ス可キヤ否ヤノ決ヲ取ン之ヲ許スニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 少數ナルヲ以テ五十三番ノ陳辨ハ議場ノ許ス所ト爲ラス因テ前會ニ提出セシ修正説ハ依然問題ニ在リ書記官ニ之ヲ朗讀セシメン

書記官 西山眞平 朗讀

第九條 第一條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ二十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

○十九番 箕作麟祥 五十三番ノ前修正説ハ依然トシテ問題ニ在レトモ發

議者タル五十三番スラ既ニ非認セル所ノ者ナレハ取決ニ際シテハ素ヨリ消滅ニ歸ス可シ然ルニ本官ハ四十四番ト同ク本案ハ刑法第四百二十六條第四項ニ該當スト思惟ス五十三番四十五番等ハ刑法第四百二十六條ニ關涉セスト云ヒ四十四番ハ發議者タル五十三番ト所見ヲ異ニスルニ拘ラス其修正說ヲ贊成セリ斯ノ如ク錯雜セハ大本ヲ捨テ枝葉ヲ論スルノ恐レ無キ能ハス前會ニ四十四番ハ此錯雜ヲ憂ヒテ調査委員ヲ置ンコトヲ發議シ本官モ同意シタルモ同意者少數ナル爲メニ消滅ニ歸セリ然レトモ朝來ノ景況ヲ觀ルニ議場ニ於テ之ヲ論スルトキハ益錯雜ヲ重又可キヲ以テ調査委員ヲ設クルカ若クハ一旦閉會シテ一兩日間ノ餘裕ヲ與ヘ然ル後ニ開會セシコトヲ望ム

○議長 十九番ハ延會ヲ望ムヤ將タ調査委員ヲ置クヲ望ムヤ

○十九番 箕作麟祥 延會モ一ノ方便ト思惟スレトモ今先ツ付託委員ヲ置ンコトヲ望ム

○六番 柴原和 付託調査委員ヲ置ク十九番ノ建議ニハ同意スルモ今若シ之ヲ設クルトキハ前各條ヲ動カスヲ得ス故ニ第二讀會ヲ畢リ第三讀會ニ移ル初メニ當リ之ヲ設クルモ若クハ只今之ヲ設クルモ既ニ決議セシ前各條ニ遡リ全部ヲ付託シテ調査セシムルヲ得ハ便ナラン

○四十四番 三浦安 本官ハ種痘規則ニ違背スル罪犯ノ刑法第四百二十六條ノ範内ニ入ルヤ否ヲ確定セスシテ本案ヲ議スルハ不可ナリト信ス故ニ十九番ノ建議ニ對シテ不同意ヲ唱ヘサルモ六番ノ言ヘル

如ク前例ニ依リテ既ニ經過セシ前各條ニ溯洄シテ再議スル權ヲ委員ニ許與センコトヲ望ム

退席 三十八番 海江田信義

○四十五番 大鳥圭介 傳染病豫防規則中ニ痘瘡ヲ掲クルモ種痘ヲ載セス本官ハ謂ラク種痘ハ傳染病ニ入ル可キニ非スシテ刑法第四百二十六條ノ範圍ノ外ニ在レハ種痘規則ニ違背セル者ハ固ヨリ刑法第四百三十條ニ據テ處分スル者ト確信ス四十四番ハ前會ヨリ委員ヲ設ケテ本案ノ刑法ニ入ルヤ否ヤヲ確定センコトヲ執持スルモ甚タ無用ノ事ニ屬ス痘瘡ハ傳染病ニシテ之ヲ豫防スルハ種痘ナリ然レハ則チ種痘規則ニ違背セル者ハ刑法第四百二十六條ニ入ル可キニ似タルモ刑法中ニ種痘ノ文字ヲ掲ケス故ニ種痘規則ニ違背セル者ニ

對シ刑法ヲ擬施スルヲ得ス本官ハ種痘規則ニ違背セル者ヲ刑法ニ入ル、ヲ欲スレトモ其明文ナキヲ奈何セン故ニ別ニ罰則ヲ設クルカ又ハ內閣委員ノ云ヘル如ク刑法第四百三十條ノ違警罪ノ例ニ依リ地方適宜ノ處分ニ委スルヲ可トス

○四十四番 三浦安 或ハ云フ刑法ニ入ル可シト或ハ云フ之ニ入ラスト其說紛紜トシテ未タ一定セス是レ本官ノ調査委員ヲ置クヲ要スル所以ナリ

○五十二番 伊丹重賢 調査委員ヲ置クニ同意ス本官ハ四十五番ト同感ニシテ痘瘡ハ傳染病ナルモ種痘ハ之ニ異ナリト思考ス然ルニ此件ニ關シテ議論紛起シ到底議場ニ於テ完結スルニ難シト信スレハ調査委員ヲ置クヲ善シトス併セテ一言セン前ニ本官ハ料料ノ最下限ヲ

五錢ト爲セル類例ヲ質セシニ發議者ハ刑法ノ違警罪ニ對シ定メタル科料ノ限内ニ於テ取捨スルハ隨意ナリト答ヘリ然ルニ最上限ヲ必ス壹圓五十錢ト爲セル理由ヲ説明セス本官ノ考フル所ハ最下限ヲ五錢ニ減セハ最上限モ隨テ減殺スルヲ當然ナリト信スルナリ

○六番柴原和 本官ノ調査委員ヲ置クヲ賛成セル趣意ハ四十四番ト異ニシテ本件ノ刑法ニ入ルヤ否ヤヲ決定スルニ在ラス此處ニ新第九條ヲ置クヤ否ヤヲ決定スルニ在リ種痘規則ニ違犯スル者ノ刑法ニ該當スルヤ否ヤハ各人ノ思想ニ因テ異ナリト雖モ本官ハ刑法ノ範圍ニ入ル可キ者トスルノ感想ヲ懷ケリ然レハ則チ科料ヲ五錢以上五十錢以下ト爲シ第四條ノ「第一條第三條」ノ間ニ第二條ヲ挿入ス可キニ似タレハ本官ハ全部付託調査委員ヲ置クヲ善シトスレトモ

發議者ノ思想ハ果シテ何如ナルヤヲ知ラサルナリ

○十九番箕作麟祥 本官ノ建議ハ罰則ノ當否ヲ調査スルニ在リ六番ノ言ヘル如ク前條ニ溯洄スルハ尤モ可トスル所ナレトモ既ニ決了セシ條項ヲ動カスハ心ニ安ンセス然レトモ前各條ニハ別ニ修正ヲ加フル無カル可シト信スレハ望ラクハ全部付託調査委員ヲ置カンコトヲ

○議長 全部付託調査委員ヲ置ク十九番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 少數ナルヲ以テ十九番ノ建議ハ消滅ス

○十九番箕作麟祥 本官ノ建議ハ消滅セシモ猶ホ前議ヲ主張ス只今議長

ノ演告セラレシハ全部ニ關スル調査委員ナリ因テ更ニ單ニ罰則ニ關スル調査委員ヲ置クヲ建議ス

○議長 罰則ニ關シ調査委員ヲ置ク十九番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 少數ナルヲ以テ十九番ノ建議ハ消滅ス

○四十四番 三浦安 本官ハ少シク内閣委員ニ質問ス前會ニ此規則ヲ犯ス者ノ刑法第四百二十六條第四項ニ入ル可キヤ否ヤヲ質問セシニ内閣委員ハ刑法ノ範圍外ニ在リト云ヘリ果シテ然ルヤ尙ホ一辨ヲ煩ハス

○番 安場保和 此事ニ關シテハ前會ニ於ケル番外二番ノ答辨ニ因テ

議論紛出シタルモ内閣及ヒ參事院ノ見ル所ニ據レハ本案ハ刑法第四百二十六條ニ入ラサル者トス然レトモ其健康ヲ保護スル點ヨリ之ヲ言ヘハ全ク第四百二十六條ニ入ラスト爲スハ疑ヒ無キヲ得ス四十四番ハ文義上ヨリ立論シテ第四百二十六條ニハ「健康ヲ保護ス」ト言ヒ而シテ本案ハ題シテ種痘規則ト爲スナレハ少ク相關涉セリト云ヘリ因テ更ニ參事院ニ於テ之ヲ調査セシニ遂ニ刑法ニ入ラサルニ決セリ顧フニ人人其一己ノ意見ヲ以テスレハ刑法ニ入ルト否トニ於テ異同ノ論ヲ生セン故ニ若シ本院ニ於テ果シテ刑法ニ入ル者ト爲セハ内閣更ニ協議スル所アル可シ只今ハ其題目ノ疑似ニ拘ラス内閣ノ意見ヲ以テ質問ニ答フルナリ本院ニ於テ幸ニ斟酌ヲ加ヘ以テ議定センコトヲ欲ス

○議長 五十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ五十三番ノ修正説ハ消滅ス

○五十三番村田保 本官ノ前會ニ提出セシ修正説ハ爾後其非ヲ悟リシ

ヲ以テ先キニ各位ニ收銷センコトヲ請ヒタルニ他人ノ説ニ雷同シテ自己ノ説ヲ變改スルハ不可ナリト爲シ遂ニ議場ノ許可ヲ得サリシ然レトモ前説既ニ消滅セシ以上ハ更ニ修正説ヲ提出セン即チ前數條ニ記載シタル規則ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處スト爲ス是レナリ五十二番ハ最上限ヲ壹圓五十錢ト爲シ最下限ヲ五錢ト爲スハ權衡ヲ失スト論スレトモ科料ハ刑法ノ末條ニ依レハ各地方適宜ニ之ヲ定ムルヲ得ルナレハ或ハ最下限ヲ八

錢最上限ヲ壹圓九十五錢ト爲スモ有ル可シ罰金ノ如キモ貳圓以上貳十圓以下ト爲シ又ハ貳圓以上貳百圓以下ト爲スモ有ルナリ五十二番ハ獨リ最下限ヲ減殺シ最上限ハ舊ニ依リ壹圓五十錢ト爲スヲ訝カルモ是レ本案ト相ヒ類セル刑法第四百二十六條第四項トノ權衡ヲ取レリ又最下限ヲ五錢ト爲セシハ貧民又ハ事實ノ憫諒ス可キ者ノ爲メニセシナリ

○四十四番三浦安 賛成

○議長 五十三番ノ修正ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○議長 五十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 少數ナルヲ以テ五十三番ノ修正説ハ消滅ス

書記官 西山 眞平 朗讀

第九條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ半ケ年毎ニ之ヲ取纏メ一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

○五十三番 村田 保 本條ヲ修正セン本條ノ「明細表ヲ製シ半年毎ニ之ヲ取纏メ」云云ト言ヘルハ文字明白ナラス前會ニ此事ニ關シ質問セシニ内閣委員ハ半年毎ニ各戸長ヨリ明細書ヲ地方長官ニ呈出シ地方長官ハ收束シテ之ヲ兩度ニ内務卿ニ報告スルナリト云ヘリ果シテ然レハ内務卿ニ送達ス可シト爲サ、レハ文義諧ハス本條ノ如クセハ地方長官ノ自ラ種痘明細表ヲ製スルニ似タレハ改メテ「府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ」ト爲シ「半ケ年毎ニ之ヲ取纏メ」ノ十字ヲ削除セン

○二十五番 細川 潤 次郎

發議者ノ云フ如ク本案ノ文字ハ甚タ明白ヲ欠ケリ是レ恐クハ九年五月十八日内務省甲第十六號布達ノ原文ヲ此ニ誤入セシニハ非サルヤ其原文タル本條ト文字ハ相ヒ似タルモ意義ハ自ラ異ナリ必ス五十三番ノ修正ノ如クシテ始メテ明暢ナリトス因テ之ヲ賛成ス

○議長 五十三番ノ修正ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○二十三番 渡邊 清 本案ノ「半ケ年」云云トハ詳細ナルニ似タルモ却テ事實ニ支障ス是レ必シモ半ケ年ヲ要セス便宜ニ收束シテ毎年一月七月兩度ニ報告スレハ可ナリ五十三番ヲ賛成ス

○議長 五十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十八人

○議長 多數ナルヲ以テ五十三番ノ修正説ニ決ス

書記官 西山 眞平 朗讀

第十條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

右奉 勅旨布告候事

○五十三番 村田 保 本條ヲモ修正セン古物商取締規則其他近來ノ法文

ノ例ヲ按スルニ「警視總監」ト言ヘハ「東京府ヲ除ク」ト分註スル者ヲ多シトス内閣委員ハ知事總監互ニ協議シテ方法細則ヲ設クト云フモ協議若シ調諧セサルトキハ如何スルヤノ疑惑ヲ生ス故ニ「警視總監」ノ四字ヲ削除セン

○四十四番 三浦 安 賛成

○二十五番 細川 潤 次郎 賛成

○六番 柴原 和 内閣委員ニ質問ス本官ハ近時ノ法文ノ例ニ從ヒ「東京府ヲ除ク」ノ分注ヲ加フルヲ可ト爲スナリ顧フニ東京府ノ如キハ警視總監ト知事ト協議スルヲ得ルモ京都府大坂府ノ如キハ如何シ是亦必ス協議スルヤ否ヤ

○番二番 水野 遵 只今五十三番ヨリ本條ノ「警視總監」ノ四字ヲ削除スル動議ヲ出セリ此件ニ關シテハ前會ニモ質問ヲ受ケ爾來尙ホ考慮セシニ本案ヲ施行スルニハ到底警察官ノ手ヲ假ルニ非サレハ能ハス單ニ戸長ノミニ委任セハ或ハ疎脱ノ患ヒ無キヲ保タス故ニ此四字ヲ加ヘタルナリ請フ六番ノ之ヲ領スルヲ然ルニ本案ヲ施行スルニハ戸長ノ職掌ニ關係スル最モ多ケレハ寧ロ五十三番ノ説ノ如ク

「警視總監」ノ文字ヲ除クモ或ハ可ナルニ似タリ蓋シ「警視總監」ノ文字ヲ存セサルモ實際ニハ差異ヲ見ル無キナリ

○議長 五十三番ノ修正ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○二十三番 渡邊 賛成ス「警視總監」ノ文字ヲ存スレハ實際ニ支障ヲ生スルヲ恐ル故ニ問題ノ如クスルヲ便宜ナリトス

○六番 柴原 取決ニ先タチ一言セン本官ハ此四字ヲ存シ分注シテ「東京府ヲ除ク」ト爲セハ可ナラント思考セシモ是レ彼此ノ協議ニ止マル小事ナレハ「警視總監」ヲ除クモ可ナリ内閣委員モ削ルヲ可トスル感想ヲ懷ケルナレハ問題ニ可決スルヲ望ム本官ハ別ニ一事ノ建議セント欲スル有リ本問題ニ可決セハ議長ノ暫ク退散ノ演告ヲ止メンコトヲ請フ

○議長 五十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十八人

○議長 多數ナルヲ以テ五十三番ノ修正説ニ決ス

○六番 柴原 特別ニ建議ス本案ノ刑法第四百二十六條ニ入ルト否ト

ハ各人ノ感想ニ因テ見解ヲ異ニスル有レハ或ハ地方官ノ適宜ニ處分シ或ハ裁判官ノ刑法第四百二十六條ヲ適用シテ往々過重ニ失スル無キヲ保タス各官ノ論説ニ因テ熟考スルニ本家中ニ罰則ヲ特設スルヲ以テ得策ト爲ス故ニ第三讀會ノ初メニ全部付託調査委員ヲ置クヲ希望ス

○議長 六番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 少數ナルヲ以テ六番ノ建議ハ消滅ス

○外番一安番保場 第三讀會ハ本院ノ定規日數ヲ間テテ開會スルナル可

シ本案ハ急施ヲ要スト云フニ非サルモ罰則ノ有無其他些ノ文字上

ノ論議ヲ聞クニ過キス現今各省ヨリ提出セル上申案甚々多ケレハ

今後續々議案ヲ下付セラル可キニ因リ午後引續キ開會センコトヲ

望ム

○議長 內閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ第三讀會ノ期日ハ追テ報告セン

午前第十一時五十分閉場

元老院會議筆記明治十八年十月十六日

○第四百九十一號議案種痘規則第三讀會

議長代理 黒田清綱

出席議員

二番 小畑 美稻

五番 上杉 茂憲

六番 柴原 和

十二番 鍋島 幹

十四番 野村 素介

二十一番 橋口 兼三

二十二番 中島 錫胤

二十三番	渡邊 清
二十四番	壬生 基修
二十五番	細川潤次郎
二十六番	西 周
二十七番	鍋島 直彬
三十一番	大久保一翁
三十四番	河田 景與
三十六番	福原 實
三十七番	榎村 正直
四十番	宮本 小一
四十二番	楫取 素彦

内閣委員
 番外
 参事院議官補水野 遵

四十三番	田邊 太一
四十四番	三浦 安
四十六番	町田 久成
四十七番	安藤 則命
四十八番	岩村 定高
五十一番	林 友幸
五十二番	伊丹 重賢
五十三番	村田 保
五十六番	何 禮之
五十八番	長松 幹

午前第十時十五分開場

○議長 第四百九十一號議案ノ第三讀會ヲ開ク

書記官 西山 眞平 朗讀

布告案

種痘規則左ノ通制定シ本年 月 日ヨリ施行ス

但明治九年内務省甲第八號及ヒ甲第拾六號布達ハ此規則施行ノ

日ヨリ廢止ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 西山 眞平 朗讀

種痘規則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感
ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ニ可決セリト認ム

書記官 西山 眞平 朗讀

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ト後再種ヲ行ヒ再種後
五年乃至七年ト後三種ヲ行フヘシ

○議長 本條ニ可決セリト認ム

書記官 西山 眞平 朗讀

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラ
ス掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ

○議長 本條ニ可決セリト認ム

書記官 西山 眞平 朗讀

第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戸長役場ニ届出ヘシ

○五十三番 村田 保 本官ノ罰則ヲ加フル動議ハ前會ニ消滅シタレトモ中心未タ服セサルヲ以テ本日ハ時機ヲ俟チ再ヒ之ヲ提出セントス且前會ニハ主務省ノ上申書ニ倣ヒ罰則ニ第二條ヲ計ヘス故ニ此第四條ニ關係ヲ生セサリシモ今回ハ第二條ヲモ計ヘントス因テ此文中「第一條」ノ下ニ第二條ノ三字ヲ加フルヲ可トス幸ニ定數ノ賛成者ヲ得ンコトヲ望ム

○六番 柴原 和 賛成

○五十一番 林友 幸 賛成

○二十五番 細川 潤 次郎 賛成

○五十二番 伊丹 重賢 賛成

○四十四番 三浦 安 賛成

○議長 五十三番ノ修正ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二十三番 渡邊 清 本官ハ前會ニ罰則ヲ加フルヲ要セスト云ヒシハ要スルニ刑法第四百二十六條ノ存スルヲ以テナリ然レトモ尙ホ熟考スルニ若シ之レ無クハ各地方ニ寬嚴ノ異同ヲ生スルヲ恐ル是ヲ以テ本會ニハ前說ヲ變シ輕微ナル罰則ヲ附セント欲スルヲ以テ本條ニ第二條ノ三字ヲ加フルヲ可トス五十三番ノ罰則ヲ加フル說ハ未

タ其可否ヲ判セサレトモ今姑ク現問題ヲ賛成ス

○五十二番 伊丹重賢 發議者ハ本案ニ罰則ヲ要スル爲メニ本條中ニ第二

條ノ三字ヲ加フ可シト云ヘリ思フニ罰則ヲ附セサレハ裁判官ハ必

ス刑法第四百二十六條ヲ適用セントス故ニ本官モ現問題ニ左袒ス

○議長 五十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ五十三番ノ修正說ニ決ス

書記官 西山眞平 朗讀

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ

痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ本條ニ可決セリト認ム

書記官 西山眞平 朗讀

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ之ヲ戸長役場ニ差

出スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘ

シ

○三十七番 榎村正直 聊カ修正說ヲ提出セン種痘證ハ本人ニ藏有セシメ

サレハ證明ニ困マントス現行規則ヲ觀ルモ之ヲ本人ニ藏有セシメ

リ本條ノ如ク之ヲ戸長役場ニ出タス者ト爲セハ徒ラニ官民ノ煩勞

ヲ來シ當該官衙ハ多數ノ種痘證ヲ接受スルヲ以テ或ハ遺失スル無

キヲ保セス故ニ本條ヲ種痘證ヲ受領シテ戸長役場ニ届出ヘシト修

正スルヲ善シトス

○五十二番 伊丹重賢 賛成ス火藥取締規則ヲ觀ルニ非營業者ノ火藥ヲ購買スルニハ許可證ヲ本營業者ニ交付シ本營業者ノ許可證ハ長ク其有ニ歸セシム種痘證モ亦宜ク本人ノ有ニ歸セシムヘキナリ

○二十三番 渡邊清 賛成

○十二番 鍋島幹 賛成

○五十一番 林友幸 賛成

○六番 柴原和 賛成

○四十二番 榊取素彦 賛成

○議長 三十七番ノ修正ハ定數以上ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 三十七番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十七人

○議長 多數ナルヲ以テ三十七番ノ修正説ニ決ス

書記官 西山眞平 朗讀

第七條 十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ハ可決セリト認ム

書記官 西山眞平 朗讀

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ付與スヘシ但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ

付與スヘシ

○議長 本條ハ可決セリト認ム

○五十三番 村田保 本官ハ此ニ一條ノ罰則ヲ加ヘント欲ス其理由ハ前會既ニ之ヲ陳述シタリ本案ニ罰則ヲ附セサレハ例ヘハ猶ホ頭アリ手足ナキカコトシ是ヲ以テ前會ニモ或ハ刑法第四百二十六條ヲ適用スト云ヒ或ハ刑法第四百三十條ヲ適用スト云ヒ又或ハ無罰ヲ可トスト云ヘル等議論甚タ多岐ニ涉レリ故ニ罰則ハ必ス之ヲ設ケサル可ラス前會ニ敗ヲ取りタルハ主トシテ文字ニ起因セルカ如シ是ヲ以テ本日ハ之ヲ改メタリ即チ第九條ト爲シ第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處スト爲ス是レナリ幸ニ定數ノ賛成者ヲ得ンコトヲ望ム

○四十三番 田邊太一 賛成ス前會ニハ惟タ起立ノミヲ以テ同意ヲ表セリ

蓋シ其文案ハ前數條云云ト言ヘルニ因リ第七條ヲモ包括スルカ故ニ少シク不備ヲ感セシモ今次ハ一一ニ條名ヲ指舉セルヲ以テ毫モ間然スル無キナリ

○二十五番 細川潤次郎 賛成

○三十七番 榎村正直 賛成

○五番 上杉茂憲 賛成

○三十四番 河田景與 賛成

○四十四番 三浦安 賛成

○議長 五十三番ノ修正ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二十五番 細川潤次郎 前會ノ罰則ヲ加フル說ハ各位モ是認スルニ似タリシニ圖ラスマ消滅セリ因テ今回ハ可決センコトヲ望ム夫レ種痘

ニ關シテハ天然痘豫防規則種痘醫規則ノ二者アルモ未ダ以テ法律ト謂フ可ラス是レ此二者ヲ廢シテ本案ヲ發スル所以ナル可シ然レハ則チ宜ク之ニ罰則ヲ加フヘシ法律ニシテ裁制ヲ缺ケハ之ヲ徒法ト爲スモ過言ナラス本官ノ現問題ニ左袒スルハ是故ヲ以テナリ尙起立ノ次ニ聊カ鄙見ヲ陳ヘ以テ行政官ノ注意ヲ乞ントス前會ニ某議官ハ無罰ヲ可トスト云ヒ本官ハ罰則ヲ加フルニ左袒セシモ中心ニハ刑措テ用ヒスト云フニ至ルヲ望ムナリ然リ而シテ此希望ヲ達センニハ行政官吏警察官吏ノ人民ニ對スル說諭ノ周到スルヲ要ス抑モ嚴格ナル罰則ヲ附スルモ遵奉者ハ一錢ヲモ供出スルヲ要セス東京府下ノ如キハ到處ニ種痘醫アリ又積善社ノ如キ謝金ヲ受ケスシテ種痘スル有レハ甚タ遵奉スルニ易キナリ故ニ敢テ顧慮ヲ要セ

サレトモ寒村僻邑ニ至テハ其遵奉スルニ易キヤ否ヤハ疑ヒ無キ能ハス觀ヨ本案ハ例外ノ規則ヲ載セス然レハ則チ八丈島沖繩縣若クハ北海道ニ居住スル人民モ内地ニ居住スル人民モ同一ニ處分スル者ナルニ是等ノ地方ニ在テハ或ハ種痘醫ニ乏シク或ハ痘漿ニ乏シキ爲メニ第一條等ニ觸ル無キヲ得ル耶今ヲ距ル四五年前本官ハ同郷人ノ依頼ニ應シテ痘漿ヲ送致セリ後日聞ク所ヲ以テスレハ痘漿ノ如キハ縣廳ニ請求スレハ之ヲ下付スル成規ナリト云フ是レ畢竟此成規ヲ知ラサルニ出タルナリ僻遠ノ地方ニハ今仍ホ斯ル情態ナキヲ期セス元來事ノ必ス行ハルルヲ欲セハ行フニ易キ方途ヲ示ササル可ラス聞ク獨乙國ノ普通教育ハ強要法ヲ以テス故ニ一方ニハ謝儀ヲ受ケスシテ教授スル校舍ノ設ケ有リト天下ノ事物悉ク然ラ

シムル能ハサル可キモ此ノ如クナレハ行フニ易ク又得テ行ハル可
 キナリ故ニ主治者ニ在テモ能ク是等ノ點ニ注意シ彼ノ路傍ニ放尿
 スルヲ禁シテ厠園ノ設ケヲ缺キタルカ如キ失當ノ措置ヲ施ス莫ラ
 シコトヲ望ム

○六番 柴原和

罰則ヲ加フル説ノ問題ト爲リタルハ本官ノ大ニ満足ス
 ル所ナレトモ未タ遽カニ賛成スル能ハス原來本官ハ本案ヲ發スル
 ヲ要セス假令之ヲ發スルモ罰則ヲ加ヘス刑法第四百三十條ニ據リ
 地方ノ罰例ニ委ス可シト思惟セシモ尙ホ熟考スルニ苟モ本案ヲ設
 クル以上ハ罰則ヲ加ヘテ各地方ニ科罰ノ異同ヲ生セサラシムルヲ
 善シトス然リ而シテ其罰例ハ務メテ寛ナルヲ要ス現行規則ニ罰則
 ヲ載スルモ未タ以テ一人ヲモ罰セスト云フ思フニ犯則者アルモ其

害ノ輕微ナルニ由ルナラン内閣ノ刑法第四百二十六條ヲ適用スル
 モ猶ホ苛酷ナリト認メタルハ宜ヘナリトス然ルニ現問題ハ五錢以
 上一圓五十錢以下ノ科料ト爲セリ郵便條例等ニ違警罪ノ正格ノ外
 ナル罰例ヲ見ルモ他ニ理由ノ存スル有リ本案ハ單ニ罰例ヲ定ムル
 ニ過キサレハ宜ク正格ニ從ヒ五錢以上五十錢以下ト爲スヘシ正格
 ヲ破ルノ非ナルハ前會ニ五十二番已ニ之ヲ辨シ本官甚々之ニ敬服
 ス故ヲ以テ本日ハ心竊カニ其説ノ出ルヲ望ミシニ未タ出テス因テ
 本官先ツ之ヲ發セリ夫ノ虎列刺患者ノ排泄物ヲ川流ニ投棄シ又其
 衣衾ヲ古著商ニ賣却スル如キモ一圓五十錢以下ノ科料ニ處スルニ
 過キス種痘ハ天然痘ヲ豫防スルニ在リ假令犯則者アルモ近隣ノ子
 弟ニシテ既ニ種痘ヲ爲セルナレハ其害ヲ被ラス然ルヲ同ク科料ノ

最上限ヲ一圓五十錢ト爲スハ權衡ヲ得タル者ナランヤ故ニ本官ハ罰則ヲ加フルニハ同意スルモ現問題ニハ同意スル能ハス若シ五錢以上五十錢以下ノ科料ト爲ス如キ說ノ出ル有レハ喜テ賛成セント欲スルナリ

○五十二番 伊丹重賢

罰則ヲ加フルハ本官ノ初ヨリ大ニ欲スル所ニシテ現問題ハ先ツ吾心ヲ獲タル者ナリ但シ六番ノ陳ル如ク科料ノ金額ヲ刑法第四百二十九條ニ據リ五錢以上五十錢以下ト爲スハ本官ノ希望スル所ナレトモ此カ爲メニ別ニ動議ヲ起セハ或ハ二說共ニ倒レテ遂ニ素志ヲ達スル能ハサルヲ恐ル故ニ本官ハ敢テ發言セザリシモ既ニ六番ノ異說ヲ來セル以上ハ不幸ニシテ若シ現問題ノ消滅ニ歸セハ本官ハ已ムヲ得ス前說ヲ提出セント欲スルコトヲ豫陳ス

○十二番 鍋島幹

本官ハ前會以來各官ノ討論ヲ聽クニ或ハ刑法第四百二十六條ヲ適用スト云ヒ或ハ刑法第四百三十條ニ據リ地方ノ罰例ニ委スト云ヒ或ハ罰セスト云ヒ以テ各其說ヲ異ニセリ本院ノ議場ニ在テスヲ此ノ如ク紛議ノ出ルナレハ本案ニ從フテ發布セハ裁判所モ各其處罰ヲ異ニスル無キヲ保セス故ヲ以テ罰則ハ必ス之ヲ加ヘサル可ラス然リ而モ六番五十二番モ陳ル如ク一圓五十錢以下ノ科料ト云フハ苛酷ナリ第四百二十六條ヲ適用ス可ラストシテ最下限ヲ五錢ニ降セシナレハ最上限モ之ヲ降ス可シ原來本案ノ違犯者ト他ノ傳染病豫防規則ノ違犯者トハ年ヲ同ウシテ語ル可ラス然レハ則チ最上限ト雖モ彼ト異ニスル何ノ不可カ之レ有シ故ニ本官ハ現問題ノ精神ニハ同意スルモ未タ賛成スル能ハス幸ニ五十二番ノ

豫陳說ノ出ルヲ俟テ賛成セント欲スルナリ

○四十四番 三浦安 本官ハ現問題ヲ賛成セル一人ナリ最下限ヲ五錢ト爲セハ最上限ハ一圓五十錢ト爲スモ五十錢ト爲スモ可ナリ但タ一圓五十錢ト爲セハ刑法第四百二十六條ノ最上限ニ合フヲ以テ稍ヤ優レリトスルノミ

○議長 五十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者十二人

○議長 少數ナルヲ以テ五十三番ノ修正說ハ消滅ス

○五十二番 伊丹重賢 五十三番ノ修正說既ニ消滅シタルヲ以テ本官ノ修正說ヲ提出セン其文案ハ前修正文案ノ一圓ノ二字ヲ省クノミ即チ第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯ス者ハ五錢

以上五十錢以下ノ科料ニ處スト爲ス是レナリ五錢以上一圓五十錢以下ト爲スノ的例ハ之レ無キニ非サルモ六番十二番モ云フ如ク最下限ヲ五錢ニ下セル以上ハ違警罪ノ正格ニ從ヒ最上限ヲ五十錢ト爲スニ如カス虎列刺ト痘瘡ト其病毒ノ寛猛ハ火ヲ觀ルヨリモ照照ナリ然ルニ彼此同ク一圓五十錢以下ノ科料ト爲スハ權衡ヲ失ス是ヲ以テ之ヲ觀ルモ本官ハ單ニ五十錢以下ト爲スヲ可トス或ハ前修正說ヲ是認スル議官アルヲ知ラサレトモ其修正說ハ既ニ消滅セルヲ以テ本官ノ意見ニ同意シ本案ニ罰則ヲ缺クノ不備ヲ見サランコトヲ是レ望ム

○六番 柴原和 賛成ス前修正說ハ一圓ノ二字アル爲メニ賛成セス某議官ハ一圓五十錢以下ト云フモ權衡ヲ失セスト論スレトモ前修正文

ニ據レハ裁判官ニ在テ或ハ犯人ノ情狀ヲ酌量セス最上限ノ科料ニ處スルモ保ス可ラス故ニ五十二番ノ修正說ノ優レルニ若カス然レトモ此說ニシテ若シ消滅セハ前修正說ニ同意セサリシヲ憾ムニ至ラン是ヲ以テ本官モ各官ノ務メテ此ニ同意ヲ表スルヲ請フナリ

○四十二番 楫取 素彦 賛成

○二十七番 鍋島 直彬 五十二番ニ問フ修正文案ハ犯ス者ハ云云ト言フニ在ル乎刑法等ハ皆犯シタル者ハ云云ト言ヘリ如何ン

○五十二番 伊丹 重賢 前修正文案モ犯ス者ハ云云ト爲セリト覺フ此文例ナキニ非サラン加之本修正說ハ既ニ賛成者ヲ得タレハ私ニ變更スル能ハス故ニ若シ之ヲ非トセハ二十七番ノ更ニ好修正說ヲ提出セシヲ望ム

○六番 柴原 和 本官ハ五十二番ノ修正文案ヲ犯シタル者ハ云云ト聽取セルヲ以テ之ヲ賛成セリ五十三番ノ修正文案モ犯シタル者ハ云云ト爲セリ五十二番ノ準據スル刑法第四百二十九條ノ成文モ亦然リ又更ニ修正說ヲ發セハ徒ヲニ議事ノ延滞ヲ來サン殊ニ本修正說ハ未タ問題ト爲ラサレハ望ムラクハ五十二番ノ犯シタル者ト改正セシコトヲ

○五十二番 伊丹 重賢 六番等ノ勸告ニ從ヒ犯シタル者ハ云云ト改ム可シ

○二十七番 鍋島 直彬 喜テ五十二番ノ修正說ヲ賛成ス

○四十四番 三浦 安 前修正說ノ消滅セル以上ハ本修正說ヲ賛成ス要ス

ルニ罰則ヲ脱スルノ憾ミ無キカ爲メナリ

○四十六番 町田 久成 賛成

○議長 五十二番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十二番 鍋島 幹 本官ハ前言ヲ履ミテ現問題ヲ賛成ス

○二十五番 細川 潤 次郎 本官ハ前問題發議者ノ自ラ收銷シタル二十錢以

上云云ノ修正説ニスヲ賛成ヲ表セリ要スルニ罰則ノ加ヘサル可ラ

サルヲ信スレハナリ罰則ヲ缺ケル爲メニ徒法ニ屬スルハ尙ホ可ナ

ルモ前會ニモ數次陳タル如ク犯則者アレハ判官ノ必ス刑法第四百

二十六條第四項ニ間擬スルヲ恐ル蓋シ本案ハ傳染病豫防規則ト異

ナルモ其所謂健康ヲ保護スル爲メニ設ケタル規則ニ異ナラサルニ

由ル是ヲ以テ本官ハ罰則ヲ加フル動議ノ出ル毎トニ之ヲ賛成セリ

前修正説ノ科料ノ最上限ヲ第四項ト同ウシ最下限ヲ大ニ降シタル

等殊ニ妥當ナルヲ信シタレトモ既ニ消滅ニ歸セシ以上ハ現問題ヲ

賛成ス

○五十三番 村田 保 本案ハ若シ罰則ヲ加ヘサルヤ徒法ニ屬ス一圓五十

錢以下云云ノ修正説ハ刑法第四百二十六條ニ據レリ故ニ單ニ五十

錢以下云云ト爲スニ比スレハ却テ權衡ヲ得タルヲ信スレトモ既ニ

消滅ニ歸シタルヲ以テ本意ニ非サルモ現問題ヲ賛成ス是レ原案ニ

決スルヲ恐レテナリ

○議長 五十二番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十三人

○議長 多數ナルヲ以テ五十二番ノ修正説ニ決ス以下順次ニ條數ヲ

改ム

書記官 西山 眞平 朗讀

第九條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ半^毎ケ年毎ニ之ヲ取纏^ト一
月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ハ可決セリト認ム

書記官^{西山眞平} 朗讀

第十條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ
便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

右奉 勅旨布告候事

○四十七番^{安藤則命} 本案ニ罰則ヲ加ヘサレハ前會ニ決セル如ク警視總

監ノ文字ヲ除ク猶ホ可ナルモ既ニ罰則ヲ加フル以上ハ舊ニ復セサ
ル可ラス抑モ是等ノ犯罪者ニ係ル處分ハ東京府ノミ獨リ他ノ府縣
ト異ニシテ警視總監ノ職權ニ屬シ府知事ノ職權ニ屬セス古物商取

締條例質屋取締條例ニ「警視總監」云云ト言ヘルモ蓋シ同一ノ理由
ニ出タルナル可シ然リ而モ此第十條ニ言ヘル方法細則ハ必ス警視
總監ト府知事トノ協議ニ成ラサル可ラス故ニ本官ハ警視總監ノ四
字ヲ復スルヲ是トス

○六番^{柴原和} 賛成ス本官ハ前會ニ警視總監ナル文字ノ有無ニ關シ内

閣委員ニ質セシニ假令之レ無キモ府知事ハ警視總監ト協議ス可ケ
レハ強テ存スルヲ要セスト答ヘリ本官モ一時ハ之ニ惑ヒシモ仍ホ
此文字ヲ削除スルニ同意セサリキ退テ考フルニ第十一條ニ言ヘル
方法細則ハ東京ニ在テハ府知事ヨリモ寧ロ警視總監ノ主トシテ作
ル可キ者ニ屬ス古物商及ヒ質屋ノ提轄ニ係ル細則モ警視總監實ニ
之ヲ作レリ東京ハ他ノ府縣ト異ナリ警部巡查モ警視總監ノ部下ニ

屬スルヲ以テ到底府知事ノ職權ヲ以テ本案ヲ施行スル能ハス故ヲ以テ此文字ハ本官モ原案ニ從フテ之ヲ存セサル可ヲスト信ス前會ニ某議官ハ本條ニ此文字ヲ存セハ前條ニ加フ可シト云ヒシモ此前條ニ言フ報告ノ如キハ府知事縣令ノ任ト爲スモ事實ニ障礙ヲ見サレハ前條ハ修正スルヲ要セス獨リ本條ハ然ラサルヲ以テ四十七番ノ動議ノ行ハレンコトヲ望ム

○十二番 鍋島 幹 賛成ス前會ニ內閣委員ハ本案ノ施行ニ關シテハ時ニ巡查モ與カラサルニ非サレトモ郡區長等ノ主トシテ之ヲ掌トルヲ以テ警視總監ノ四字ヲ存セサルモ障礙ヲ見スト云ヘリ然レトモ到底警視廳官吏ノ手ヲ借ルニ非サレハ實行スル能ハサルヲ以テ府知事ハ之ニ依頼セサルヲ得ス若シ依頼スルト爲セハ實際ニ事務ノ澁

滯スルヲ免レス故ニ之ヲ存シテ以テ東京ニ在テハ警視總監府知事ノ協議ヲ要スルヲ明カニシ此法律ノ圓滑ノ實行ヲ期スルニ若カサルナリ

○十四番 野村 素介 賛成

○四十二番 楫取 素彦 賛成

○五十一番 林友 幸 賛成

○議長 四十七番ノ修正ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○五十三番 村田 保 本官ハ現問題ニ同意セス第一讀會ニモ陳タル如ク警視總監府知事縣令云云ト言ヘル前例ハ古物商取締條例ト質屋取締條例トノ二者アルノミ是レ主トシテ警視總監ノ料理ヲ要スル事項ナルヲ以テナリ且此二條例ニハ「府知事」ノ下ニ「東京府ヲ除ク」ノ

文字ヲ附ス即チ東京ヲ除クノ外ハ地方官其治下ノ警察ヲ總轄スルニ由ル翻テ本案ヲ觀ルニ此二條例トハ全ク其性質ヲ異ニシ彼ハ警察ノ事項ニ係ルモ此ハ行政ノ事項ニ係ル又尙シ此ニ警視總監ノ四字ヲ存スルナレハ前條ニモ之ヲ加ヘサル可ラス要スルニ論者ハ何ノ故ニ之ヲ存ス可シト爲ス耶本官ハ其理由ヲ解スル能ハス内閣委員スヲ前會ニ於テ内閣ノ此四字ヲ存シタルヲ恠ムト明言セルニ非スヤ行政ノ事項ヲ規定スル法律ニシテ未タ斯ル類例アルヲ見ス若シ之レ有レハ請フ明カニ指示スルヲ果シテ然ラハ本官モ前說ヲ改メ謹テ現問題ヲ賛成ス可キナリ

○四十四番 三浦安

本官モ現問題ニ同意スル能ハス若シ此四字ヲ存スレハ宜ク東京府知事ノ與カラサル者ト爲スヘシ然ルニ其事已ニ能

ハサル以上ハ必ス前會ノ決議ニ從ハサル可ラス某議官ハ之ヲ存セサレハ警部巡查ハ府知事ノ依頼ニ應シ本案ノ施行ニ任スルヲ以テ自ラ緩慢ニ流ルト云フモ斯ル杞憂ハ以テ之ヲ存スルノ理由ト爲スニ足ラス五十三番モ云フ如ク行政ノ事項ニシテ警視總監ト府知事トノ連署ヲ要スト爲シタル前例ハ布達ニハ之ヲ見ルモ布告ニハ之ヲ見ス故ニ本官ハ前會ノ決議ニ依テ削除スルヲ可トス

○十二番 鍋島幹

本官ハ現問題ノ賛成者タルヲ以テ反對論者ノ駁撃ニ對シ一言セン反對論者ハ本案ヲ以テ一モ警察官ノ干涉ヲ要セサレハ現問題ノ由テ出ル所以ヲ知ラスト云ヘリ其レ然リ第一條乃至第十條ノ事項ハ實ニ警察官ノ干涉ヲ要セサルモ第十一條ニ言ヘル方法細則ハ畢竟本案ノ圓滑ニ行ハルル爲メニ作ル者ナレハ即チ警察

官ノ干涉ヲ要スル事項ヲ生セサルヲ得ス然リ而シテ東京府ハ他ノ府縣ト異ニシテ警察ハ警視總監ノ專任スル所ナレハ此ニ至テ窮セントス是レ現問題ノ由テ出ル所以ナリ且既ニ本案ニ罰則ヲ附シタルハ各位ノ知悉スル所ノ如シ然レハ則チ其違犯者ヲ告發スルハ警察官ノ任ニ屬ス故ニ必ス警視總監ノ四字ヲ加ヘサル可ラス因テ現問題ニ可決スルヲ望ム

○三十七番 榎村正直 第十一條ニ言ヘル方法細則ニ罰則ヲ附スルナレハ警視總監ノ文字ヲ存ス可キモ最前ノ決議ニ於テ本案ニ附シタル以上ハ復タ之ヲ存スルヲ要セス故ニ本官モ現問題ヲ非認ス

退席

三十一番

大久保一翁

○六番 柴原和

現問題ニ對シ駁論頻リニ出ルヲ以テ尙ホ一言之ヲ辨セ

ン前會ニ番外二番ハ警視總監ノ四字ヲ削ルモ本案ノ施行ニ關シテハ警視總監府知事相共ニ協議ヲ盡ス可ケレハ削除ヲ要スト云ヘリ然レトモ是レ内閣委員ノ公言ニ非スシテ寧ロ番外二番ノ私言ト謂フ可シ又古物商取締條例等ニ警視總監云云ト言ヒ東京府ヲ除クトノ脚註ヲ施シタルハ其專ラ警視總監ノ擔任ス可キニ由ル本案ハ東京府知事モ擔任セサル可ラス殊ニ明細表ノ報告ノ如キ專ラ府知事縣令ノ擔任ス可キ事項ニ屬ス故ニ第十條ニハ警視總監ノ文字ヲ要セサルモ第十一條ニハ之ヲ要ス主務省ニ於テ末條ニ之ヲ載セ又參事院ノ異論ヲ容レタルニ拘ラス内閣ニ於テ之ヲ存セシモ其必要ヲ感セルニ由ル可シ警視總監ノ文字ハ必ス加ヘサル可ラサルヲ信スルナリ

○五十一番 林友幸 本官モ現問題ヲ賛成セル一人ナリ東京府ハ他ノ府縣ト異ニシテ警部巡查ハ知事ニ隸屬セサルニ因リ警視總監ノ文字ヲ載セサレハ本案ノ犯則者アルニ當リ障碍ヲ見ントス故ニ此四字ハ必ス存セサル可ラス論者ハ従前ノ布告ニ斯ル類例アリヤト難スレトモ苟モ必要ナレハ宜ク之ヲ存スヘキノミ敢テ類例ノ如何ヲ顧慮スルヲ須ヒス

○二十三番 渡邊清 本官ハ前會ニ議決スル如ク警視總監ノ文字ハ削除スルヲ可トス論者ハ此文字ヲ存セサレハ本案ノ方法細則ヲ作ルモ功用ヲ見サル可シト云フモ原來法律ト方法細則トハ似テ非サル者ナレハ決シテ斯ル顧慮ヲ要セス故ニ方法細則ヲ作ルハ宜ク府知事縣令ニ委付スヘシ但獨リ東京府知事ハ行政上ノ便宜ニ因リ警視總

監ト協議スルハ隨意ナリトス尙ホ他ニ此四字ヲ存ス可ラサル理由ノ在ル有リ何ソヤ府知事ノ職掌ハ種痘ノ普及ヲ謀ルニ在リテ警視總監ノ職掌ハ六種傳染病ノ發生シタル時ニ之カ豫防方ヲ施スニ在ル是レナリ故ニ現問題ノ否決センコトヲ望ム

○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取レ四十七番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ四十七番ノ修正說ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ本案ニ決シ第三讀會ヲ畢ル例ニ沿ヒ本會ヲ以テ確決會ト認ム可キヤ否ヤヲ決セン確決會ト認ムルニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ第三讀會ヲ確決會ト認メ本案ハ例ニ依リ修

正ノ理由ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午後零時二十分閉場

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

元老院會議筆記 明治十八年九月二十八日

○第四百九十二號議案 北米合衆國驛遞院ト郵便爲替定約ノ儀 檢視會

議長 東久世 通禮

出席議員

五番 上杉 茂憲

六番 柴原 和

十二番 鍋島 幹

十四番 野村 素介

十七番 田中 芳男

十九番 箕作 麟祥

二十一番 橋口 兼三

- 五十一番 林 友幸
- 五十二番 伊丹 重賢
- 五十三番 村田 保
- 五十四番 西村 貞陽
- 五十六番 何 禮之
- 五十八番 長松 幹

午前第九時三十分開場

○議長 第四百九十二號議案ノ檢視會ヲ開ク朗讀ハ布告文ニ止メ他
ハ之ヲ略ス

書記官 西山 眞平 朗讀

第三拾號

北米合衆國驛遞院ト郵便爲替定約別冊ノ通取結ヒ本年十月一日ヨ
リ施行ス

右奉 勅旨布告候事

明治十八年九月十六日
太政大臣公爵三條實美
農商務卿伯爵西鄉從道

左案ハ朗讀ナカリシモ參看ニ便センカ爲メ附記ス

日本帝國驛遞局ト北米合衆國驛遞院トノ間ニ取結ヒタル
郵便爲替定約

第一條 日本帝國ト北米合衆國トノ間ニ郵便ヲ以テ爲替ヲ執行ス

ヘシ

第二條 爲替金ハ雙方共米國貨幣ヲ以テ記載スヘシ但兩國ノ間貨幣ノ相場ニ時々昇降アルカ爲メニ日本驛遞局ハ適當ノ割合ヲ以テ爲替金ヲ引直スヘキコトヲ茲ニ約束ス即チ米國へ爲替ヲ取組ム爲メ日本驛遞局ニ於テ受領シタル金額ハ爲替ヲ振出ス時ノ相場ヲ以テ米國貨幣ニ引直シ又日本ニテ拂渡ス爲メ米國ヨリ振出シタル爲替ノ金額ハ日本驛遞局ニ於テ爲替目錄ノ到達シタル日ノ相場ヲ以テ日本貨幣ニ引直スヘシ

第三條 爲替一口ノ金額ハ雙方共五拾弗ヲ超過スヘカラス

第四條 壹仙未滿ノ端數金額ハ爲替トナスヘカラス

第五條 爲替金額ハ差出人ヨリ拂込ミ並ニ受取人へ拂渡シ共金貨又ハ金貨ト同様ノ價アル他ノ通貨タルヘシ

若シ兩國ノ一ニ於テ金貨ヨリ低價ナル紙幣ヲ通貨トシテ使用スルトキハ該國ノ驛遞局ハ其紙幣ヲ以テ人民ト爲替ノ受拂ヲナスコトヲ得但相場ノ差異ニ隨テ計算ヲナスヘシ

第六條 日本驛遞局並ニ米國驛遞院ハ雙方共其振出ス爲替手数料ノ割合ヲ時々更定スルノ權ヲ有ス此手数料ハ振出局ノ收入トス但日本驛遞局ハ日本ヨリ振出シ米國ニ於テ拂渡スヘキ爲替金總額ノ千分ノ七半ノ歩合金ヲ米國驛遞院へ拂ヒ米國驛遞院ハ米國ヨリ振出シ日本ニ於テ拂渡スヘキ爲替金總額ヨリ前同様ノ歩合金ヲ日本驛遞局へ拂フヘシ

第七條 爲替ハ差出人及ヒ受取人ノ氏名住所又差出人若クハ受取人會社組合ナレハ其名號及ヒ住所ヲ差出人ヨリ申立ルニ非レハ

之ヲ振出サ、ルヘシ但差出人若クハ受取人ノ名稱ヲ差出人ヨリ
一層詳細ニ陳述セル場合ニ於テハ其陳述スル通りヲ爲替目録ニ
記載スヘシ

第八條 兩國間郵便爲替ノ事務ハ總テ交換局ヲ經テ之ヲ取扱フヘ
シ日本ニ於テハ東京ヲ以テ交換局ト定メ米國ニ於テハ「カリホル
ニア」州「サンフランシスコ」ヲ以テ交換局ト定ムヘシ

第九條 米國ヨリ日本ヘ振出シタル爲替ノ要件ハ「サンフランシス
コ」交換局ニ於テ附録甲號雛形ニ因テ調製セシ目録ニ記入シ且ツ
其金額ハ一々米國貨幣ニテ之ヲ登記シ「サンフランシスコ」ノ日
附印ヲ押シ東京驛遞局ヘ遞送スヘシ該局ハ之ニ日附印ヲ押シ拂
渡ノ手續ヲナスヘシ

日本ヨリ米國ヘ振出シタル爲替ノ要件モ前同様ノ手續ヲ以テ東
京驛遞局ニ於テ附録乙號雛形ニ因テ調製シタル目録ヘ記入シ且
ツ其金額ハ一々兩國ノ貨幣ニテ之ヲ登記シ其局ノ日附印ヲ押シ
「サンフランシスコ」交換局ヘ遞送スヘシ該局ハ之ニ日附印ヲ押
シ拂渡ノ手續ヲナスヘシ
目録及ヒ目録中記載ノ件々ハ差立ノ順序ニ從ヒ番號ヲ付シ且ツ
甲國ノ目録乙國ニ達スルトキハ乙國ハ其後初メテ遞送スヘキ目
録中ニ甲國ノ目録領收ノ旨ヲ記載スヘシ
前記目録ハ兩國互ニ每便送付スヘシ且ツ目録ノ紛失等ヨリ不都
合ノ生セサル爲メ兩國互ニ次便ヲ以テ前便遞送セシ目録ノ副書
ヲ送致スヘシ

目錄差立ノ日ニ當リ假令報知スヘキ爲替ノ振出ナシト雖トモ目錄ハ爲替振出無之ノ文字ヲ記シ必ス之ヲ遞送スヘシ

毎年六月三十日ニ終ル一期間ニ分チタルハ一年ヲ三箇月ツ、四期

米國ニ於テ振出シ六月三十日後ニ至リ「サンフランシスコ」交換局ヘ到達セル爲替ハ六月中最後ニ遞送ノ目錄補欠ノ目錄ニ記入スヘシ又同期間日本ニ於テ振出シ六月三十日後ニ至リ東京交換局ニ到達セル爲替モ同様六月中最後ニ遞送ノ目錄補欠ノ目錄ニ記入スヘシ

第十條 差立局ノ目錄受取交換局ヘ到達次第該局ニ於テ目錄ニ照シ受取人ヘ宛内國爲替ヲ振出シ内國爲替規則ニ隨ヒ之ヲ無税ニテ受取人或ハ拂渡局ヘ配達スヘシ

目錄中受取交換局ニ於テ改正シ難キ誤謬アルトキハ差立局ヘ照會シ其説明ヲ請フヘシ差立局ハ可成丈ケ速ニ之ニ應スヘシ尤モ右誤謬アル爲替ハ其照會中内國拂渡爲替ノ振出ヲ停止スヘシ爲替目錄ハ壹通ツ、受取交換局ヨリ差立交換局ヘ返還スヘシ尤モ其返還前受取交換局ニ於テ目錄ニ記載ノ爲替拂渡局ノ名ヲ記入スヘシ且ツ日本ヨリ返還スル米國目錄ヘハ日本驛遞局ニ於テ引直シタル割合ニ依リ日本貨幣ヲ以テ爲替金額ヲ一々記入スヘシ

第十一條 甲國ヨリ乙國ニ向ケ振出シタル爲替ノ拂渡方ハ都テ拂渡國ノ内國爲替規則ニ隨ヒ取扱フヘシ

拂濟證書ハ雙方共其金額ヲ拂渡シタル國ニ保存スヘシ

第十二條 爲替受取人若クハ差出人ノ氏名ニ誤謬アリテ其改正ヲ

要シ或ハ差出人ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請願セントスルトキハ差出人ヨリ其爲替ヲ振出セシ國ノ驛遞局ヘ申立ツヘシ

再度ノ爲替ハ初度ノ爲替振宛國ノ驛遞局ニ限り之ヲ振出シ其手續ハ都テ其國ニ於テ既ニ制定シ又ハ新ニ制定スヘキ規則ニ隨フヘシ

第十三條 爲替ハ初度ノ振出シト再度ノ振出シトヲ論セス拂渡國ニ於テ未タ其爲替金ヲ拂渡サス且ツ拂渡サ、ル旨ヲ拂渡國ノ驛遞局ヨリ通知アリテ其旨ヲ證明シタル後ニ非レハ振出局ニ於テ之ヲ差出人ニ拂戻サ、ルヘシ

第十四條 爲替ハ振出シタル月ヨリ十二箇月間ニ受取ラサレハ其効用ヲ失ヒ其金額ハ振出國ニ屬シ其處分ニ任スヘシ故ニ日本驛遞局ハ米國ヨリ受取リタル目錄中ノ爲替ニテ右ニ定メタル期限内拂渡

サ、ルモノハ米國ノ貸金トシテ每一期間ノ計算書中ニ記入スヘシ

又米國驛遞院ハ日本驛遞局每一期間計算書ニ記載ノ爲メ該局ヨリ到達セル目錄中爲替金ノ本條ニ因リ効用ヲ失ヒタルモノヲ記載シタル明細書ヲ每月末遞送スヘシ

第十五條 每一期間ノ末ニ於テ東京驛遞局ハ該期中兩國ヨリ振出シタル爲替ノ詳細ヲ記スル各目錄ノ總額及ヒ右ヨリ生スル差引殘額ヲ示ス所ノ計算書ヲ調製スヘシ

右計算書三通ヲ在華盛頓府米國驛遞院ヘ送達シ其差引殘額ハ證明ノ上日本驛遞局借方トナルトキハ計算書ヲ送付スルト同時ニ「三ウヨル」ヘ宛米國貨幣ヲ以テ仕拂ヲナシ又米國驛遞院借方トナルトキハ計算書ノ寫ヲ返付スルト同時ニ米國貨幣ヲ以テ當時

ノ相場ニ依リ買得ヘキ丈ケノ日本通貨ヲ買入レ横濱宛銀行爲替券ヲ以テ仕拂フヘシ

此ノ每一期間計算書用紙ハ附録丙丁及戊號ノ雛形ニ依ルヘシ
計算決定前日本驛遞局及米國驛遞院ノ中一方ヨリ他方ヘ對シ五千弗餘ノ殘額ヲ生スルトキハ速ニ右殘額ノ見積高ヲ拂フヘシ

第十六條 兩國ノ驛遞總官ハ前定約ノ旨趣ニ抵觸スルニ非サレハ詐僞ヲ防キ或ハ一般ニ爲替ノ事業ヲ改良スヘキ目的ヲ以テ新ニ條目ヲ増設スルノ權アルヘシ但甲國ニテ増加セシ條目ハ之ヲ乙國驛遞總官ヘ通知スヘシ

第十七條 日本若クハ米國商人ノ此爲替ヲ以テ金員ヲ遞送スル者夥多ニシテ隨テ其金員巨額ニ至ルトキハ日本驛遞局若クハ米國

驛遞院ハ適宜ニ其手數料ヲ増加シ若クハ一時全ク其振出ヲ停止スルノ權アルヘシ

第十八條 此定約ハ千八百八十五年十月一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國ヘ廢止ノ報知ヲナシタル日ヨリ十二箇月間効力ヲ有スヘシ
此定約ハ二通ヲ製シ一通ハ明治十八年五月二十三日東京ニ於テ記名調印シ又一通ハ一千八百八十五年四月十八日華盛頓ニ於テ記名調印スルモノナリ

日本驛遞總官代理

日 下 義 雄印

北米合衆國驛遞總官

ダブルユ、エフ、ヴ非ラス印

戊 號
千八百八十年第一期
日本ト米國トノ間ニ交換シタル爲替總計表

日本ノ貸高		金額	米國ノ貸高		金額
米國ヨリ振出シ日本ニ於テ 仕拂フヘキ爲替		弗 仙	日本ヨリ振出シ米國ニ於テ 仕拂フヘキ爲替		弗 仙
目錄第	號	弗 仙	目錄第	號	弗 仙
"	"		"	"	
"	"		"	"	
"	"		"	"	
"	"		"	"	
"	"		"	"	
歩合金千分ノ七半			歩合金千分ノ七半		
拂戻爲替			拂戻爲替		
受取人ナキ爲替			受取人ナキ爲替		
日本ノ貸高總計			米國ノ貸高總計		
差引米國ヨリ受取ルヘキ高			差引日本ヨリ受取ルヘキ高		

○議長 本案ヲ明備ナリト認ル者ハ起立セヨ
總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ハ檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シ例ニ遵
ヒ上奏セン

午前第九時三十五分閉會

元老院會議筆記 明治十八年十月二日

○第四百九十三號議案 違警罪即儀 檢視會

議長 東久世通禧

出席議員

一番	青山 貞
五番	上杉 茂憲
六番	柴原 和
十番	由利 公正
十四番	野村 素介
十五番	伊集院兼寛
十七番	田中 芳男

十八番	津田 出
十九番	箕作 麟祥
二十二番	中島 錫胤
二十三番	渡邊 清
二十四番	壬生 基修
二十五番	細川潤次郎
二十六番	西 周
二十九番	神山 郡廉
三十番	楠本 正隆
三十一番	大久保一翁
三十三番	神田 孝平

三十四番	河田 景與
三十六番	福原 實
三十七番	榎村 正直
三十八番	海江田信義
三十九番	津田 真道
四十番	宮本 小一
四十一番	稅所 篤
四十二番	楫取 素彦
四十三番	田邊 太一
四十四番	三浦 安
四十五番	大鳥 圭介

- 四十七番 安藤 則命
- 四十八番 岩村 定高
- 五十一番 林 友幸
- 五十二番 伊丹 重賢
- 五十三番 村田 保
- 五十五番 黒田 清綱
- 五十六番 何 禮之
- 五十七番 井田 讓
- 五十八番 長松 幹

午前第九時五十五分開場

○議長 第四百九十三號議案ノ檢視會ヲ開ク本案ハ條數多キヲ以テ

朗讀ハ布告文ニ止ム

書記官 西山 眞平 朗讀

第三拾壹號

明治十四年^{九月}第四拾四號布告及ヒ同年^{十二月}第八拾號布告ヲ廢止シ

違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

明治十八年九月二十四日

太政大臣公爵三條實美
司法卿伯爵山田顯義

左案ハ朗讀ナカリシモ參看ニ便センカ爲メ附記ス

違警罪即決例

- 第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス
- 第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ
- 又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得
- 第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限

- 並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ
- 第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス
- 第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ
- 第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス
- 第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サ、ル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリ

タル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

○議長 本案ヲ明備ナリトスル者ハ起立セヨ
起立者三十七人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス例ニ仍テ上奏セン
午前第十時閉會

元老院會議筆記明治十八年十月十六日

○第四百九十四號議案

明治十六年第二號布告中增補改正ノ備

檢視會

議長代理
黒田清綱

出席議員

- | | |
|------|-------|
| 二番 | 小畑 美稻 |
| 五番 | 上杉 茂憲 |
| 六番 | 柴原 和 |
| 十二番 | 鍋島 幹 |
| 十四番 | 野村 素介 |
| 二十一番 | 橋口 兼三 |
| 二十二番 | 中島 錫胤 |

○議案 本支 四番 七番 九番 十番 十一番 十二番 十三番 十四番 十五番 十六番 十七番 十八番 十九番 二十番 二十一番 二十二番 二十三番 二十四番 二十五番 二十六番 二十七番 二十八番 二十九番 三十番 三十一番 三十二番 三十三番 三十四番 三十五番 三十六番 三十七番 三十八番 三十九番 四十番 四十一番 四十二番 四十三番 四十四番 四十五番 四十六番 四十七番 四十八番 四十九番 五十番 五十一番 五十二番 五十三番 五十四番 五十五番 五十六番 五十七番 五十八番 五十九番 六十番 六十一番 六十二番 六十三番 六十四番 六十五番 六十六番 六十七番 六十八番 六十九番 七十番 七十一番 七十二番 七十三番 七十四番 七十五番 七十六番 七十七番 七十八番 七十九番 八十番 八十一番 八十二番 八十三番 八十四番 八十五番 八十六番 八十七番 八十八番 八十九番 九十番 九十一番 九十二番 九十三番 九十四番 九十五番 九十六番 九十七番 九十八番 九十九番 一百番

二十三番	渡邊 清
二十四番	壬生 基修
二十五番	細川潤次郎
二十六番	西 周
二十七番	鍋島 直彬
三十一番	大久保一翁
三十四番	河田 景與
三十六番	福原 實
三十七番	榎村 正直
四十番	官本 小一
四十二番	楫取 素彦

午前第十時十分開場

四十三番	田邊 太一
四十四番	三浦 安
四十六番	町田 久成
四十七番	安藤 則命
四十八番	岩村 定高
五十一番	林 友幸
五十二番	伊丹 重賢
五十三番	村田 保
五十六番	何 禮之
五十八番	長松 幹

○議長 正副議長不参ニ因リ本官之ニ代理シ第四百九十四號議案ノ
檢視會ヲ開ク

書記官 西山 眞平 朗讀

第三拾貳號

明治十六年月一第貳號布告裁判所一覽表中左ノ通増補改正ス但新置
裁判所開廳ノ期日ハ司法卿ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム

一 佐賀始審裁判所管内伊萬里ニ治安裁判所ヲ置キ肥前國西松浦郡
ヲ管轄ス

一 長崎始審裁判所管内大村ニ治安裁判所ヲ置キ肥前國東彼杵北高
來兩郡ヲ管轄ス

一 鳥取始審裁判所管内倉吉ニ治安裁判所ヲ置キ伯耆國河村久米八

橋ノ三郡ヲ管轄ス

一 盛岡始審裁判所管内福岡ニ治安裁判所ヲ置キ陸奥國二戸郡及ヒ
陸中國南北九戸郡ヲ管轄ス

右奉 勅旨布告候事

太政大臣公爵三條實美

司法卿伯爵山田顯義

明治十八年十月十二日

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ヲ明備ナリト認ムル者ハ起立
セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ハ異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ具
シ例ニ遵ヒ上奏セン

午前第十時十五分開場

元老院會議筆記 明治十八年十月三十日

○第四百九十五號議案 札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開クノ儀 檢視會

議長 佐野 常民

出席議官

- 二番 小畑 美稻
- 四番 永山 盛輝
- 五番 上杉 茂憲
- 六番 柴原 和
- 十番 由利 公正
- 十二番 鍋島 幹
- 十四番 野村 素介

十五番 伊集院兼寛

十七番 田中 芳男

十八番 津田 出

十九番 箕作 麟祥

二十一番 橋口 兼三

二十四番 壬生 基修

二十六番 西 周

二十七番 鍋島 直彬

二十九番 神山 郡廉

三十番 楠本 正隆

三十二番 久我 通久

三十三番 神田 孝平

三十四番 河田 景與

三十六番 福原 實

三十九番 津田 眞道

四十番 宮本 小一

四十一番 税所 篤

四十二番 楫取 素彦

四十三番 田邊 太一

四十四番 三浦 安

四十五番 大鳥 圭介

四十六番 町田 久成

- 四十七番 安藤 則命
- 四十八番 岩村 定高
- 四十九番 東久世通禧
- 五十一番 林 友幸
- 五十二番 伊丹 重賢
- 五十三番 村田 保
- 五十四番 西村 貞陽
- 五十五番 黒田 清綱
- 五十八番 長松 幹

午前第十時開場

○議長 本日ハ第四百九十五號議案ノ檢視會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

第三拾三號

自今札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク但治罪ノ手續ハ
當分ノ内便宜取計フヘシ
右奉 勅旨布告候事

明治十八年十月二十二日 太政大臣公爵三條實美

司法卿伯爵山田顯義

○議長 發議ナキハ本案明備ナリト認メラル、者ト信ス因テ檢視ヲ
經過セシ旨ヲ具シ例ニ準ヒ上奏セン

午前第十時五分閉場

十二番	楫取	素彦
十三番	林	友幸
十四番	柴原	和
十六番	箕作	麟祥
十八番	田中	芳男
十九番	神田	孝平
二十番	壬生	基修
二十二番	渡邊	清
二十四番	黒田	清綱
二十五番	福原	實
二十六番	西村	貞陽

二十七番	井田	讓
二十八番	岩村	定高
二十九番	橋口	兼三
三十一番	鍋島	直彬
三十二番	津田	出
三十四番	上杉	茂憲
三十六番	楠本	正隆
三十七番	河田	景與
三十八番	細川潤次郎	
三十九番	津田	眞道
四十二番	久我	通久

- 四十五番 町田 久成
- 四十六番 三浦 安
- 四十七番 鷺尾 隆聚
- 四十八番 村田 保
- 四十九番 大久保一翁
- 五十番 官本 小一
- 五十一番 田邊 太一
- 五十二番 永山 盛輝
- 五十三番 長岡 護美
- 五十四番 大鳥 圭介
- 五十六番 神山 郡廉

内閣委員 番外 参事院議官補男谷 忠友

午前第十時五分開場

○議長 第四百九十六號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

明治十二年九月第三拾七號第三拾八號布告及同十六年七月第貳拾五號布達ヲ以テ東京大阪橫濱神戸各株式取引所ニ於テ當分金銀貨幣取引差許置候處 年 月 日ヨリ右取引ヲ禁止ス

右奉 勅旨布告候事

○番二番 男谷 忠友 本案ハ本年六月ヲ以テ農商務卿ヨリ太政大臣ニ呈出セシ所ノ者ニ係レリ今其旨趣ヲ陳述シテ本案ヲ發布スル理由ヲ明

サン明治十一年ノ交ニ當リ正貨ト紙幣トノ價格ニ大差異ヲ生セシヤ十二年第三十七號布告ヲ以テ東京大阪株式取引所ニ金銀貨ノ取引ヲ許シ同年第三十八號布告ヲ以テ橫濱株式取引所ヲ橫濱取引所ト改稱シ以テ金銀貨ノ取引ヲ許セリ爾後十三年第二十四號布告ヲ以テ更ニ金銀貨ノ定期取引ヲ禁止セシモ再ヒ十六年第二十五號布達ヲ發シテ神戸株式取引所ニ之ヲ許シ同年第二十七號布告ヲ以テ東京大阪橫濱各株式取引所ニ二月以内ノ定期取引ヲ許セシハ是レ本員ノ辨明ヲ待タスシテ各議官ノ明カニ知ル所ナリ然ルニ近來漸次ニ紙幣ノ價格ヲ恢復シテ稍ヤ正貨ト平準ヲ得ルニ至ル既ニ彼此平準ヲ得タル以上ハ金銀貨ノ賣買ヲ許スノ必要ヲ見ス啻ニ其必要ヲ見サルノミナラス法律ヲ以テ公然ニ通貨ノ賣買ヲ許スハ體裁

ニ於テ甚々厭フ可ク是レ此禁止令ノ制定ヲ要スル所以ナリ他別ニ深遠ノ理由アルニ非サレハ速ニ議定センコトヲ望ム

○十四番 柴原和

內閣委員ノ説明ニ因テ本案ノ旨趣ヲ領會ス抑モ法律

ヲ以テ通貨ノ賣買ヲ許セシハ素ヨリ已ムヲ得サルニ出ルノミ決シテ正理ノ容ス可キニ非ス十六年第二十七號布告ヲ以テ金銀貨幣ニ二月以内ノ定期取引ヲ許スヤ其議案ヲ本院ノ議ニ付セシニ今日ノ四十六番議官ハ熱心ニ廢案說ヲ主張シ本官モ之ニ贊同シ終ニ否決ノ旨ヲ具シテ上奏セリ蓋シ是レ再ヒ其賣買ヲ公許スルヤ投機商業ノ愈ヨ盛ンニシテ相場ニ亂高下ヲ生スルヲ懼レテナリ然ルニ內閣ハ銳意決行シタルニ爾後紙幣ノ信用ハ漸次ニ恢復シ今日ニ至リ通貨ハ概シテ其價位ノ平準ヲ保ツヲ得タリ是レ實ニ此厭惡ス可キ通

貨ノ賣買ヲ禁止ス可キ好時機ニ到達スト謂フ可シ因テ嘗テ十六年第二十七號布告ノ議案ニ對シ廢棄說ヲ主張シタルト同一ノ精神ヲ以テ喜テ本案ヲ賛成ス

○三十八番 細川潤次郎

本官モ本案ヲ賛成ス凡ソ貨幣ハ諸物價ノ標準タル者ナルニ之カ賣買ヲ公許シテ價格ニ變動ヲ生セシムルハ甚タ不可ナリ内閣委員ノ最後ニ陳述セル體裁厭フ可シトノ一言即チ正當ノ理由ト爲ス却說ス内閣委員ニ對シ一道ノ質問ヲ爲サン本案ノ禁止ハ定期賣買ト現場賣買トヲ併セテ禁止スルニ在ル耶十三年第二十四號布告ハ「右取引ノ内定期賣買ノ儀ハ自今差止」云云ト言ヒ裡面ヨリ之ヲ解スレハ現場賣買ヲ許スヤ明白ナリ本官ハ啻ニ義解ノ明晰ナルヲ欲スルノミナラス横濱神戸長崎等ノ各地ニ於テ外商ニ

對スル商品ノ取引ハ必ス正貨ヲ以テセサル可ラサルニ因リ現場賣買ハ之ヲ禁スル能ハスト思惟スレハナリ然ルモ此ニ關セス併セテ禁止スルモ可ナルノ理由アル耶又十三年第二十四號布告ハ但書ヲ以テ施行以前ニ取結ヒタル定期賣買ニ係ル約定完結期限ヲ示シタルモ本案ニハ此明文ヲ掲ケス是レ之ヲ掲クルヲ要セサル耶將タ別ニ行政官ノ處分ヲ以テ救濟スル方策ノ存スル耶

出席

十七番

野村 素介

○四十六番 三浦安

本案ノ制定ハ頗ル美舉ナリ十二年以來金銀貨ノ取引ヲ公許セル布告ニハ悉ク「當分ノ内」ナル文字ヲ見サル無シ即チ當時紙幣低落ノ已ムヲ得サル爲メニ正貨ノ賣買ヲ公許セルヤ明白ナリ是レ道理上ヨリ之ヲ言ハハ甚タ嫌忌ス可キノミナラス頗ル政

府ノ信用ヲ薄弱ナラシメタルカ如シ然ルニ今日ハ紙幣ト正貨ト幾
ント均一ノ價格ニ歸シ即チ「當分ノ内」ナル文字ヲ抹消スル好時機
ニ達シタルナリ只今三十八番ハ定期賣買ト現場賣買トヲ併セテ禁
止スルヤ如何ヲ質問セルモ本官ハ素ヨリ併セテ禁止スルト信ス何
トナレハ論者ノ望慮セル外商トノ取引ニ正貨ノ交換ヲ要スル場合
ニハ公然ニ手数料ヲ收ムル兩替商ニ就キテ其交換ヲ辨スルヲ得レ
ハナリ本案ハ定期ト現場トヲ問ハス株式取引所ニ於テ一切ニ金銀
貨ノ取引ヲ禁スルニ在ルノミ又本案ノ實施ハ發布ヨリ若干月日ノ
後ニ在ル可ク且定期賣買ハ僅ニ二月ノ約定ニ過キサレハ此禁令ノ
出ルヤ定期ノ約定ヲ結フ無カラシ故ニ第二ノ望慮モ亦其要用ヲ見
サルナリ

○番二番 男谷忠友

三十八番ノ質疑ニ對スル答辨ハ只今四十六番ノ説明
ヲ以テ之ヲ盡セリ即チ本案ハ定期ト現場トヲ問ハス一切ニ之ヲ禁
止ス彼ノ外商トノ取引ニ要スル金銀貨ノ交換ハ兩替商ニ就キテ之
ヲ辨スルヲ得ルナリ要スルニ株式取引所ニ於テハ一切ニ金銀貨ノ
賣買ヲ爲サシメサルノミ又現時ノ定期取引ハ二月ニ超ル能ハス故
ニ本案發布ノ本日ヨリ二月ヲ算シテ實施ノ月日ヲ定メントスルナ
リ

○十六番 箕作麟祥

株式取引所ニ於テ金銀貨ノ賣買ヲ禁止スル旨趣ハ番
外ノ辨明ヲ得テ既ニ之ヲ領會シ謹テ賛成ヲ表ス但タ本日ハ本案ノ
第一讀會ニ繼キ第四百九十七號議案ノ第一讀會ヲ開クナレハ今此
兩案ニ牽連スル一疑義ヲ質サン此等ノ法案ニハ違犯者ノ罰例ヲ規

定セルヲ見ス然ラハ則チ十三年第二十一號布告ヲ以テ之ヲ處分ス
ル耶將タ別ニ制裁法律ノ存スル有ル耶

○番二番男谷 忠友 十六番ノ質問ハ本員ノ深ク研究セサリシ所ナルモ本

員ノ考案ヲ以テスレハ十三年第二十一號布告ニ據リテ處分セサル
可ラスト信ス何トナレハ此布告ハ米穀并ニ金銀貨及ヒ諸株式ノ密
賣買者ヲ處分スル法律ニシテ既ニ十六年第四號布告ニモ限月現場
賣買ノ方法ニ倣ヒ諸物品ノ賣買取引等ヲ爲シタル者ハ總テ十三年
第二十一號布告ニ據リ處分スルコトヲ規定セル一例ヲ存スレハナ
リ十六番ノ然ク領會センコトヲ請フ

○議長 發議質問既ニ盡キタルヲ以テ第一讀會ヲ畢ル

午前第十時三十分閉會

元老院會議筆記明治十八年十一月十九日

禁傍聽

○第四百九十六號議案 株式取引所ニ於テ金銀貨幣取引禁止ノ儀 第二第三讀會

議長 佐野 常民

出席議員

- 一番 伊丹 重賢
- 二番 小畑 美稻
- 三番 東久世通禧
- 五番 榎村 正直
- 九番 長松 幹
- 十一番 安藤 則命
- 十二番 楫取 素彦

十三番	林	友幸
十四番	柴原	和
十六番	箕作	麟祥
十九番	神田	孝平
二十番	壬生	基修
二十二番	渡邊	清
二十四番	黑田	清綱
二十五番	福原	實
二十七番	井田	讓
二十九番	橋口	兼三
三十番	伊集院	兼寬

三十一番	鍋島	直彬
三十三番	上杉	茂憲
三十五番	由利	公正
三十六番	楠本	正隆
三十七番	河田	景與
三十八番	細川	潤次郎
三十九番	津田	真道
四十五番	町田	久成
四十六番	三浦	安
四十九番	大久保	一翁
五十二番	永山	盛輝

五十三番 長岡 護美

五十四番 大鳥 圭介

五十六番 神山 郡廉

内閣委員番外二番 參事院議官補男谷 忠友

午前第十時開場

○議長 第四百九十六號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官森山茂 朗讀

布告案

明治十二年九月第三拾七號第三拾八號布告及同十六年七月第貳拾五號
布達ヲ以テ東京大阪橫濱神戸各株式取引所ニ於テ當分金銀貨幣取
引差許置候處 年 月 日ヨリ右取引ヲ禁止ス

右奉 勅旨布告候事

○四十六番三浦安 曩者東京其他各地ノ株式取引所ニ金銀貨幣ノ取引

ヲ公許シタルハ當時正貨ト紙幣ト其時價ニ大ナル間差ヲ生シタル
ニ因リ一時ノ處置ニ出タルニ過キス然リ而シテ今ヤ幾ント其間差
ヲ見サルニ至レハ已ニ此便宜法ヲ存スルヲ要セス故ニ第一讀會ニ
モ陳述セシ如ク本案ハ寧ロ必要ナリトス且其文字モ整齊ナルヲ以
テ本案ニ可決シ直チニ第三讀會ヲ開クヲ望ム

○一番伊丹重賢 株式取引所條例第一條ヲ觀ルニ「株式取引所ハ云云日本
政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並
諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ」ト言ヘリ以テ株式取引所
ニ於テ金銀貨幣ノ取引ヲ爲スハ已ニ其本業ナラサルヲ知ル又本案

ニ示セルニ布告一布達ヲ觀ルモ皆當分ナル文字ヲ下セリ即チ永遠ニ取引ヲ許シタルニ非サルヲ證ス可シ故ニ本官モ四十六番ト同シク本案ヲ是認シ本會ヲ畢レハ徑チニ第三讀會ヲ開クヲ望ム

○二十二番 渡邊清

本官ハ本案ニ異議ヲ容ルルニ非サレトモ聊カ疑義ヲ存シ第一讀會ニ質問ノ機ヲ失セシヲ以テ今之ヲ質問セン本案ニハ明治十二年ノ二布告及ヒ十六年ノ一布達ヲ列記シ而シテ十六年第二十七號布告ニ及ホササルハ何ソヤ本幹ヲ廢セハ枝葉ハ自カラ消盡スルヲ以テノ故ナル乎寧ロ宜ク新布告ヨリ廢スヘキカ如シ

○外二番 男谷忠友

二十二番ニ答ヘン明治十六年第二十七號布告ハ東京其他各地ノ株式取引所ニ於テ金銀貨幣ノ二月以内ニ係ル定期賣買ヲ公許セシノミ是レ即チ明治十三年第二十四號布告ヲ改正セルニ

過キス今其第二十四號布告ヲ一讀センニ曰ク「明治十二年九月第三十七號第三十八號布告ヲ以テ東京大坂株式取引所並橫濱取引所ニ於テ金銀貨幣取引ノ儀當分ノ内差許置候處右取引ノ内定期賣買ノ儀ハ自今差止候條此旨布告候事但云云」ト故ニ東京其他各地ノ株式取引所ニ於テ金銀貨幣ノ取引ヲ公許セシ者ハ惟タ本案ニ示セルニ布告一布達ノ存スルノミ第二十七號布告ノ如キハ畢竟枝葉ニ屬シ即チ本案ニ列記セサル所以ニシテ質義者ノ云フ如ク本幹ヲ廢セハ枝葉ハ隨テ消滅ニ歸ス可キニ由ルナリ

○十六番 箕作麟祥

本官ハ第一讀會ニ於テ内閣委員ニ本案違反者ノ處罰方ヲ質問セシニ明治十三年第二十一號布告ヲ適用スト云ヘリ即チ本官ノ意見ト符合スルヲ以テ徹頭徹尾本案ニ同意スルモ此ニ一言

ヲ添ン抑モ明治十三年前後ニ在テハ金銀貨幣米穀株式共ニ或ル會所ニ於テ公然ニ限月若クハ現場ノ賣買ヲ爲スヲ許セリ然リ而モ密賣買ヲ爲ス有ルヲ以テ第二十一號布告ヲ發セシナリ故ニ本布告ハ要スルニ金銀貨幣等ノ密賣買ニ係ル裁判法ト謂フ可キノミ今ヤ本案ヲ以テ株式取引所ノ金銀貨幣ノ取引ヲ禁止スルナレハ後來裁判官ハ此第二十一號布告ヲ以テ米穀株式ハ舊ニ仍テ密賣ノ場合ノミニ適用シ金銀貨幣ハ公賣ノ場合ニモ適用セサル可ラス然ルニ元來第二十一號布告ノ精神ハ只今陳述セル如クナルヲ以テ之ヲ本案ノ違反者ニ適用スルニ或ハ踟躇スル無キヲ期セス蓋シ杞憂ニ似タルモ獨リ金銀貨幣ノ賣買ニ限り本案發布ノ前後ニ因テ第二十一號布告ノ見解ヲ異ニセサル可ラサルコトヲ一言スルノミ本官モ四十六

番ノ建議セル如ク本案ニ可決シテ直チニ第三讀會ヲ畢ルヲ望ム

○三十八番 細川潤次郎

本官モ第一讀會ニ於テ内閣委員ニ質問セシニ明答ヲ得テ氷解セリ本案ハ法律ノ體面ヨリ之ヲ論セハ少シク妥當ナラス試ニ之ヲ陳センニ本案ハ廢止スル布告布達ノ號名ヲ列記シタル爲メニ二十二番ノ質問モ出タルナリ金銀貨幣ノ取引ヲ許シタルハ二布告一布達ニ止マリ即チ本幹ヲ倒セハ枝葉自ラ枯ルノ理由ナルヲ以テ本案ノ敢テ不可ナルニ非ストスルモ此ニ一ノ失體ヲ存セリ本案ニ言ヘル十六年第二十五號布達ハ當サニ布告ト爲スヘキニ似タリ然ルヲ何ノ故ニ布達ト爲セシヤ解ス可ラス若シ一一ニ號名ヲ列記セハ斯ル失體ヲ見ントス列記セサルモ毫モ障碍ヲ生セス是ヲ以テ本案ノ冒頭以下「以テ」マテノ文字ハ宜ク削除スヘキカ如シ

然レトモ各官モ大概本案ヲ是認スルニ似タルヲ以テ本官ハ敢テ修正ヲ提出セサル可キナリ

○二十二番 渡邊清 本官ハ内閣委員ノ答辨ヲ得テ熟考スルニ會マ只今

三十八番ノ説ヲ聽キ寧ロ本案ニ修正ヲ加フルヲ優レリト思惟ス因テ三十八番ノ考案ヲ拾フテ之ヲ提出セン本案ハ強テ解ス可ラサルニ非サルモ三十八番ノ陳ル如キ闕點ヲ存ス加之明治十六年第二十
七號布告ハ實ニ金銀貨幣ノ定期賣買ヲ公許シタルニ過キサルモ當時農商務卿ハ是等ニ干涉スル職權ヲ有セスシテ後日之ヲ有シタル等尙ホ他ニ重要ノ關係ヲ存スル無キニ非ス其レ然リ本案ノ如ク一
一ニ列記スルトキハ遂ニ遺漏ヲ致スヲ免レス之ニ反シテ然ク列記セサルモ毫モ障礙ヲ見サルナリ故ニ本官ハ寧ロ本案ノ冒頭ヨリ以

テ「マテノ三十六字ヲ削除スルヲ優レリトス請フ幸ニ各位ノ之ヲ賛成センコトヲ

○三十八番 細川潤次郎 本官ハ聊カ衷情ヲ吐露セシニ意外ニモ二十二番

ノ採用スル所ト爲レリ思フニ本案ヲ以テスルモ解シ難キニ非ス故ニ本官ハ熱心ニ修正スルヲ欲セサルモ已ニ其動議ノ出タル以上ハ
謹テ之ヲ賛成ス

○議長 三十八番ニ問フ最前ノ發議ハ修正説ヲ提出セシニハ非サル

○三十八番 細川潤次郎 否ナ本官ハ修正ノ意見ヲ有スルモ本案ノ如クシ

テ解ス可ラサルニ非ス且各官ハ大概本案ヲ是認スルニ似タルニ因リ吾ハ衆ニ從ントノ意思ヲ以テ敢テ動議ヲ發セサルコトヲ陳ヘタ

○議長 領會ス二十二番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

退席

九番

長松

幹

○外二番 男谷 忠友

現問題ニ關シ各位ノ參考ニ供スル爲メニ一言セン前

者參事院ニ於テモ本案ノ冒頭ヨリ「以テ」マテノ文字ヲ不要ト爲シ

尙且嘗テ金銀貨幣ノ取引ヲ公許シタルコトハ此ニ之ヲ示スヲ要セ

スト説ク者多キニ居リ遂ニ其意義ノ如ク修正セシモ内閣ハ文辭ノ

唐突ナルト嚴酷ニ似タルトヲ忌ミテ之ヲ採用セス現問題ハ惟タ「以

テ」マテノ文字ヲ削除セントスルノミナレハ參事院ノ修正ニ比スレ

ハ一層ニ原案ニ近キモ猶ホ唐突ヲ免レス假令之ヲ削除セサルモ意

義ニ障碍ヲ見サルノミナラス本員等ハ却テ妥當ナリト信ス殊ニ現

問題ノ發議者モ熱心シテ修正ヲ欲スルニ非サレハ原案ニ可決スル

ヲ望ム併セテ請求ス本會ヲ畢ラハ徑チニ第三讀會ヲ開シコトヲ

○十四番 柴原 和

本修正説ハ發議者賛成者俱ニ熱心シテ主張セサルモ

已ニ問題ト爲リタル以上ハ本官モ亦一言セサルヲ得ス聞ク内閣ハ

參事院ノ修正ノ文辭唐突ニシテ嚴酷ニ似タルヲ以テ之ヲ採用セサ

リシト云フ其レ然ラン本官ハ内閣ノ議ニ拘ラスシテ原案ヲ是認ス

反對論者ナル二十二番ハ本案ノ十六年第二十七號布告ヲ列記セサ

ルヲ望慮スルモ番外二番ノ陳ル如ク個ハ是レ本案ニ言ヘルニ布告

一布達ニ生出セシ者ナレハ本案ニ列記スルヲ要セス夫レ修正ヲ加

フルモ之ヲ加ヘサルモ共ニ不可ナル無キナラハ寧ロ原案ニ從フヲ

善シトス殊ニ本官ハ現問題ヨリモ原案ノ深切ナルニ若カストス看

ヨ從前ノ布告ニモ單ニ某布告ト指サス概シテ某年某月某號某布告ト深切ニ之ヲ示シ本院亦常ニ是認シタルニ非スヤ故ニ本官ハ現問題ヲ非視スルナリ

○十九番 神田孝平 修正文案ハ稍ヤ苛酷ニ聞ユ且或ハ本官ノ過慮ナルヤヲ知ラサレトモ今日金銀貨幣ノ賣買ヲ禁スルモ遠カラスシテ復タ之ヲ許スニ至ラン何トナレハ來年ヨリ銀貨ヲ通用スルナレハ金貨ト銀貨トノ時價ニ間差ヲ生シ而シテ其交換ヲ兩換屋ノミニ託スルトキハ遂ニ再ヒ金貨ヲ海外ニ流出セシムルノ禍患ヲ致ス可ケレハナリ故ニ一步ヲ進メテ之ヲ論セハ或ハ本案ヲ要セサル如キモ姑ク之ヲ發シテ賣買ヲ禁シ異日必要ノ時機ニ會セハ又復タ此禁ヲ解ク可キノミ然レハ則チ婉曲ナル文章ヲ以テシテ屢禁シ屢許スノ便

宜ヲ行政官ニ與フルニ如カサルナリ

○議長 發議已ニ盡タルヲ以テ決ヲ取ン二十二番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ二十二番ノ修正說ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者二十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ第二讀會ヲ畢ル向キニ本案ノ急施ヲ要スル内閣ノ通牒ニ接シ且過刻四十六番ノ建議及ヒ内閣委員ノ請求セル有ルヲ以テ徑チニ第三讀會ヲ開キ朗讀ヲ略ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者三十人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ第三讀會ヲ畢ル例ニ沿ヒ上奏セ
ン散會セヨ

午前第十一時十分閉場

元老院會議筆記明治十八年十一月十七日

禁傍聽

○第四百九十七號議案 米商會所條例中改正ノ儀、米商會所並株式取引所稅制定
中改正ノ儀、米商會所並株式取引所稅制定

備ノ第一讀會

議長 佐野
常民

出席議員

- 一番 伊丹 重賢
- 二番 小畑 美稻
- 三番 東久世通禧
- 五番 榎村 正直
- 六番 海江田信義
- 八番 岩下 方平

十一番	安藤	則命
十二番	楫取	素彦
十三番	林	友幸
十四番	柴原	和
十六番	箕作	麟祥
十八番	田中	芳男
十九番	神田	孝平
二十番	壬生	基修
二十二番	渡邊	清
二十四番	黒田	清綱
二十五番	福原	實

二十六番	西村	貞陽
二十七番	井田	讓
二十八番	岩村	定高
二十九番	橋口	兼三
三十一番	鍋島	直彬
三十二番	津田	出
三十三番	上杉	茂憲
三十六番	楠本	正隆
三十七番	河田	景與
三十八番	細川潤次郎	
三十九番	津田	眞道

- 四十二番 久我 通久
- 四十五番 町田 久成
- 四十六番 三浦 安
- 四十七番 鷺尾 隆聚
- 四十八番 村田 保
- 四十九番 大久保一翁
- 五十番 宮本 小一
- 五十一番 田邊 太一
- 五十二番 永山 盛輝
- 五十三番 長岡 護美
- 五十四番 大鳥 圭介

五十六番 神山 郡廉

内閣委員番外二番 參事院議官補男谷 忠友

午前第十時三十八分開會

○議長 第四百九十七號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官森山茂 朗讀

布告案

明治九年八月第百五號布告米商會所條例第十一條及第十五條第一節

左ノ通改正シ 年 月 日ヨリ施行ス

第十一條 手數料ノ定規

第一節 會所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手數料ハ會所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第二節 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ收受スルコトヲ得

第十五條 納税及積金ノ規則

第一節 會所ハ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ税金ヲ納ムヘシ

右奉 勅旨布告候事

布告案

明治十一年^{五月}第八號布告株式取引所條例第七章第四十一條左ノ通改正シ 年 月 日ヨリ施行ス

第七章 手数料ノコ

第四十一條 取引所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手数料ハ取引所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ
右奉 勅旨布告候事

布告案

米商會所并株式取引所税左ノ通制定シ 年 月 日ヨリ施行ス
但明治十一年^{九月}第三拾號布告明治十五年^{十二月}第六拾五號布告及同年^月第六拾七號布告ハ 年 月 日ヨリ廢止ス

第一條 會所并取引所ノ税金ハ左ノ割合ニ從ヒ每一ヶ月分ヲ翌月十日マテニ地方廳ニ上納スヘシ

米穀定期賣買

賣買各約定代金高 千分ノ二

公債證書定期賣買

諸株式定期賣買

賣買各約定代金高

萬分ノ三

賣買各約定代金高

萬分ノ六

第二條 定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル税金ハ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之レヲ還付セス

第四條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納税ノ精算ヲ検査セシムヘシ

第五條 會所并取引所ニ於テ賣買約定ノ代金高ヲ詐リ脱税シタルトキハ頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其會所并取引所ヨリ其脱税ニ係ル金額ヲ徴收スヘシ
右奉 勅旨布告候事

○番二番男谷忠友

本案ノ改正并ニ制定ハ第四百九十六號議案ト同シク

農商務大藏兩卿ノ上申セル主趣ニ根基ス今其理由ヲ陳明センニ十五年第六十五號ヲ以テ米商會所株式取引所仲買人納税規則ヲ布告セシ以來賣買取引ノ數額頓ニ減少シ隨テ密賣買ノ弊害盛ニ起リ警視廳ハ百方搜索ニ盡力セルモ其證蹟ヲ隱蔽スル頗ル巧ナルカ故ニ一モ之ヲ防制スルヲ得ス畢竟此弊害タル皆是仲買税ノ過重ナルニ因由セサルハ莫シ例ヘハ千圓ノ米穀ヲ賣買センニハ賣買各約定金高千分ノ五即チ千圓ニ五圓ノ仲買税ヲ納メ加フルニ千分ノ二即チ二圓ノ會所手数料ト千分ノ一即チ一圓ノ仲買口錢トヲ合セテ八圓ヲ支辨セサル可ラス故ニ若シ確實ナル取引ヲ爲セハ損失ヲ受ルモ決シテ利益ヲ見サルナリ十四五年ノ交ノ如ク米價ニ非常ノ變動ヲ

生セルニ當テハ或ハ間マ利益ヲ占ムル無キニ非サレトモ近年ノ如ク米價ノ平準セル時ニ在テハ會所ニ於テ正當ノ賣買ヲ爲サンヨリ寧ロ危險ヲ冒シテ密賣買ヲ爲シ以テ贏利ヲ博セントスルハ蓋シ勢ノ免レサル所トス初メ仲買稅ヲ創定セルヤ大藏省ハ收稅金額ノ豫算ヲ百萬圓以上ニ置キシモ實際ノ收入額ハ僅ニ十數萬圓乃至二十萬圓ニ過キス一步ヲ轉シテ國庫ノ歲計如何ヲ顧ミルニ支出ハ日ヲ逐テ増加シ百般ノ物品ハ悉ク課稅シテ殆ント遺ス無キニ至レリ故ニ本案ヲ發シテ稅額ヲ弛ヘ密賣買ヲ制止シテ以テ傍ヲ實收額ヲ増加セント欲ス其稅率ノ比例ノ如キハ質問ニ隨ヒ辨明セントス

○十六番 箕作麟祥

內閣委員ノ辨明ハ主トシテ三布告案中ノ第三案ニ係ル如キモ要スルニ三案連帶ノ説明ナルノミ抑モ仲買稅ヲ創行セシ

目的ハ收入額ヲ増加セントスルニ在リシモ其實施以後ニ及テハ却テ豫計セシ十分ノ一ニ過キス故ヲ以テ今改メテ稅額ヲ減シ密賣買ヲ制シテ逃稅ヲ防キ以テ歲入ノ増加ヲ謀ラントスルハ本官ノ深ク賛成スル所ナリ凡ソ稅額ノ苛重ニ過クルトキハ密賣買ノ盛シニ行ハレテ逃稅者ヲ増加シ又百般ノ事業モ亦爲メニ退縮ヲ致シテ稅源ヲ涸ラスニ至ルハ歐米經濟學者ノ常ニ說ク所トス明治十五年第六十五號布告案ヲ本院ノ議定ニ付セララルヤ其稅額ノ加重ナルヲ見テ或ハ禁止稅ナリトスル論者アリシ果シテ禁止稅ナルヤ今日ハ殆ント其目的ヲ達セリト謂フ可キモ然ラスンハ却テ目的ヲ謬レリト謂フ可シ思フニ今回減稅ノ目的タル却テ政府ノ歲入ヲ増スニ在リ若シ能ク此旨趣ヲ推シテ烟草稅酒類稅ニ及ホスヲ得ハ人民ノ欣喜

スル知ル可キナリ本官聊カ疑義ヲ質問セン現行米商會所條例第十
一條ニハ手數料ノ最多限ヲ示セルモ本案ハ此制限ヲ解キ會所ヲシ
テ相當ノ數額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受ケシムル者ト爲セ
リ假令ヒ明文ノ制限ヲ解キタルモ尙ホ兩卿ノ認許ヲ經ルヲ要セハ
是尙ホ制限ノ存スルニ異ナラス蓋シ若シ其多キニ過レハ兩卿ハ之
ヲ裁制スルナラン抑モ手數料甚タ多ケレハ依頼者ノ囑託即チ客人
ノ注文ヲ減シ其影響ハ直チニ會所ノ利益ニ關係スルヲ以テ假令ヒ
法律ノ制限ヲ解クモ會所ハ濫リニ過多ノ手數料ヲ收メサルヤ明白
ナリ然ルニ尙ホ兩卿ノ認許ヲ受ケシムルトキハ幾分ノ制限ヲ存ス
ルニ似テ無用ノ干涉ヲ爲スニ非スマヤ又假ニ大藏卿農商務卿ノ認許
ヲ受ケシムルト爲スモ十四年第三十一號布告ヲ以テ現行條例中ノ

内務省内務卿又ハ大藏卿ト言フヲ都テ農商務省農商務卿ト改正シ
稅則ヲ除クノ外ハ總テ農商務卿ノ管轄ニ屬セシメタルニ本條ノ手
數料ヲ定ムルニ當リ故サラニ大藏卿ノ之ニ關與スルハ果シテ何ノ
理由ソ若シ全ク農商務卿ニ委任ス可ラスト爲セハ他ノ事件ニモ大
藏卿ノ關與スルヲ要セン以上二點ノ説明ヲ請フ

○番二番男谷
外二番忠友

質問ニ答ヘン手數料ノ制限ヲ解キシモ尙ホ大藏農商

務兩卿ノ認許ヲ經ルヲ要スルハ手數料ハ即チ稅源タルニ由ル而シ
テ其之ヲ負擔スルハ賣主買主ノ雙方ニ在ルヲ以テ法律ニ明掲セサ
ルモ公然ニ其數額ヲ限定セサル可ラス例ヘハ賣買高各千分ノ二ト
爲セハ雙方ヨリ千分ノ四ヲ供出スルヲ要シ既ニ會所ニ於テ其數額
ヲ限定スル以上ハ兩卿必ス此ニ關與セサルヲ得ス蓋シ農商務卿ハ

專ラ營業ヲ提轄シ大藏卿ハ單ニ稅源タル手數料ニ干涉ス故ニ本案
モ兩卿ノ協議ニ成レルナリ吾言ヤ短單ニ過クルモ十六番ハ既ニ其
旨趣ヲ領セルナラン

○十六番 箕作麟祥

番外ノ辨明ヲ得タルモ尙ホ疑團ノ氷解セサル有ルヲ
以テ更ニ裡面ヨリ一問ヲ發セン若シ手數料ノ過多ニ出ルヲ恐ルト
ナラハ宜ク現行法ノ如ク法律上ノ制限ヲ存スヘク而シテ其制限ノ
存スル以上ハ敢テ兩卿ノ關與スルヲ要セス然ルヲ故サラニ手數料
ノ制限ヲ解キ而シテ旋ヤ復タ其過多ナランコトヲ恐レ兩卿ニ關與
セシムルハ何ソヤ本官ノ所考ニ據レハ既ニ制限ヲ解キ會所ノ限定
スルニ委セシ以上ハ強テ干涉セサルヲ善シトス蓋シ是レ彼ノ口錢
ヲ限定スルト同一ノ理由ニ非スヤ

○番二番 男谷忠友

現行法ノ手數料ハ千分ノ二ナルモ此改正ニ關シ本員
ノ大藏農商務兩省ノ豫算スル所ヲ聞クニ會所ハ賣買者ヨリ千分ノ
三ヲ領收シ其二ヲ稅金ニ充テ其一ヲ會所ニ收入セントス而シテ若
シ此ヲ以テ會所ノ費用ヲ支フル能ハスハ或ハ千分ノ一半ヲ收入
スルヲ要スルモ知ル可ラス蓋シ賣買高増加セハ假令ヒ手數料ハ低
減スルモ實際ノ收入ヲ増加スルカ故ニ兩卿ハ時宜ヲ斟酌シテ増減
ヲ指揮ス可キナリ彼ノ口錢ハ株式取引所條例ニハ之ヲ限定セス米
商會所條例ニ於テモ明ラカニ其制限ヲ設ケス即チ會所ト仲買トノ
協議ニ委ス然レトモ若シ實際ニ支障ヲ生スル有ラハ或ハ兩卿ノ協
議ヲ以テ限定スルモ未タ知ル可ラス以上主務省ノ意見ヲ舉ケテ以
テ十六番ノ質疑ニ答フルナリ

○二十七番井田讓

本案ノ發布ヲ要スル理由ハ内閣委員ノ辨明ニ因テ之ヲ領ス是レ米商者ニ便益ヲ與ヘ傍ヲ國庫ノ收入ヲ増加セシメントスルニ在リ抑モ米商會所ヲ設置スル得失ニ關シテハ議論未タ一定ニ歸セサルモ個ハ此レ姑ク措キ見ニ既ニ設置セルヨリ之ヲ觀レハ其條例第一條第一節ニ明掲セル如ク米穀ノ流通ヲ謀ルヲ主眼ト爲ス可ク決シテ政府ノ收入ヲ多クシ賣買者ノ便益ヲ謀ル如キ瑣々タル理由ヲ根據ト爲ス可キニ非ス因テ内閣委員ニ一問ス此回ノ改正タル米穀ノ流通ヲシテ益ス圓滑ナラシムル旨趣ノ存スル有ル耶又第一條第二節ニ依リ農商務卿ハ土地ノ景況ヲ謀リ全國十六所ノ米商會所ノ外ト雖モ米穀ノ輸出頗ル多ク又ハ乏シキヲ告ル有リテ其流通ヲ謀ル爲メニ米商會所ノ新設ヲ出願スルトキハ之ヲ允許ス

ル耶本官ノ聞ク所ニ據レハ目今ハ米穀頗ル多キヲ致セルヲ以テ新設ヲ許ササル内規ナルカ如シ果シテ然ル歟聊カ説明ヲ煩ハス

○番二番男谷忠友

第一問ナル米穀ノ流通ヲ謀ル云云ノ主趣ハ決シテ放棄ニ付スルニ非ス即チ米商會所條例第一條第二節ノ精神ハ始終貫徹セシメントス何トナレハ稅額ヲ減シテ賣買ノ隆盛ヲ謀ルハ即チ流通ノ圓滑ヲ謀ルニ外ナラサレハナリ第二問ハ農商務卿ノ權内ニ在リテ本議題ノ外ニ涉ルモ今此ニ私見ヲ陳ヘテ以テ之ニ答ヘン現在ノ米商會所ハ東京、大坂、京都、博多、高岡、野蒜、名古屋、金澤、新潟、近江、岡山、赤間關、兵庫、松山、桑名、德島ノ十六所ニシテ是皆ナ米穀ノ聚散最モ多キ便宜ノ土地ナラサルハ無ク而シテ今後新設ヲ出願スルニ當リ其土地若シ米穀ノ出入ニ必要ナルナラハ農商務卿ハ其

權内ニ於テ之ヲ許可スルナル可シ但シ山村海陬何ノ地ヲ論セス必
ス許可スト謂フニハ非サルナリ

○一番 伊丹重賢

十五年第六十五號布告ヲ以テ仲買稅ヲ增課セシ以來漸

次ニ賣買高ヲ減シ商況大ニ衰頽セリト聞ク本官ハ仲買人納稅規則
發布ノ當初ニ於テハ私カニ禁止稅ニ非サルカト疑ヘリ然ルニ同年
第六十六號布告ヲ以テ條例ヲ改正シ證據金即チ約定代金高十分ノ二
ヲ十分ノ一ニ減シ稅金十分ノ四ヲ十分ノ二ニ減シタル旨意ヨリ之
ヲ推セハ其禁止稅ニ非サルヤ明白ナリ今回政府ハ俗諺ニ所謂ル「數
テコナス」ノ得策タルヲ悟リ此減稅案ヲ布告シテ以テ益ス米商ヲ獎
勵シ傍ヲ國庫ノ收入ヲ増加セント謀ルハ本官ノ喜ンテ贊成スル所ナリ

○三十八番 細川潤次郎

本案ハ米商會所條例中改正株式取引所條例中改

正及米商會所并株式取引所稅制定ノ三布告案ヲ包括セリ今此ヲ分
析セハ各案共ニ多少ノ議論ヲ免レサル可シト雖モ各官別ニ異論ヲ
立ル無ク本官モ亦同感ニシテ國庫ノ收入ヲ増加スル旨趣ニ至テハ
敢テ異議ヲ容レサルナリ抑モ米商會所ヲ設置スル利害ノ何如ハ實
ニ重大ノ問題ニ係ル畢竟此會所ハ投機商業場ニシテ即チ賭博ニ類
似スル商業ヲ爲ス場處ナリ故ニ其弊害タル施キテ全國ニ及ヒ遂ニ
正經的ノ事業ヲシテ衰頽廢弛セシムルニ至ラン然リ而シテ彼ノ米
穀ノ流通ヲ圓滑ナラシムルトノ論據ハ米商會所ヲ有用視スル論者
ノ持說ナレトモ米商會所ヲ有害視スル反對ノ論點ヨリ之ヲ言ヘハ
百ノ弊害ヲ見ルモ一ノ利益ヲ見ス既ニ己ニ國家ノ蠱毒タルヲ悟ラ
ハ從來米商會所ノ課稅ニ依テ得タル收入額ハ之ヲ他ノ稅源ニ求メ

以テ直チニ廢ス可シト反駁セントス蓋シ若シ勢ヒ直チニ廢スルヲ得スンハ或ハ禁止稅ヲ課シテ以テ漸次ニ禁絶ヲ謀ル可キノミ然ルト雖モ奈何セン此ニ避ク可ラサル一ノ困難ノ在ル有リ何ソヤ曰ク一方ニ會所ヲ廢スルモ一方ニ密賣買ヲ盛ンナラシム故ニ此點ヨリ考察セハ或ハ會所ノ營業ヲ公許シ其提轄ヲ嚴ニスルノ優ルニ似タリ是此大問題ノ久シク一決セサル所以ナリ十四五年ノ交ニ當リ會所ノ賣買頗ル活潑ニシテ敢テ重稅ニ感セサル時ト雖モ尙ホ密賣買ヲ爲ス有リシト聞ク今日ハ會所ノ賣買頓ニ衰絀シ隨テ密賣買ヲ増滋セシナル可キモ果シテ十四五年ノ頃ニ比シテ幾許ノ多キヲ加ヘタルヤ若シ其實況ノ知ル可クンハ改正ノ原因ヲ確カムル爲メニ之ヲ聞ンコトヲ望ム從來逃稅者ノ取締方法ハ充分ニ嚴密ナル可キモ

彼等踪蹟ヲ詭秘ニシテ實効ヲ見ル能ハサル耶若シ其罪狀ヲ摘發スル無ンハ密賣買ノ多シト云フハ蓋シ想像ノ推斷ニ過キサル可シ本官ハ新聞紙上曾テ密賣買ヲ以テ處斷ヲ受ケタル者アルヲ見ス是レ本官ノ本案改正ニ關シ頗ル疑訝ヲ存スル所以ナリ

○番男谷
外二番忠友

密賣買逃稅ノ數額ハ明ニ之ヲ知ル能ハス密賣買者ノ狡黠ナル巧ニ其罪蹟ヲ隱匿シ偶マ捕拿スルモ一モ其證憑ヲ得ル能ハス向キニ大坂神戸等ノ地方ニ於テ數百人ヲ縛セシモ證憑ノ不充分ナル爲メニ遂ニ放免セリ仲買稅實施以來米商會所ノ近傍街衢ニ集ヒ密ニ賣買ヲ爲ス者頓ニ増セルモ前陳ノ情況ナルヲ以テ警察官モ手ヲ下ス能ハス今聊カ參考ノ爲メニ仲買稅實施前後ニ係ル賣買高ヲ舉ケ以テ逃稅額ノ比較ヲ推測センニ仲買稅實施以前ハ一年

ノ賣買推算高一億六千二百五十三万四千六百圓ナリシモ實施以後ハ七千三百十七万八千六百四十四圓二十八錢ニ下リ殆ント半額ノ減少ヲ見タリ蓋シ是レ實際ニ減少スルニ非スシテ即チ密賣買ノ盛ニ行ハルルノ致ス所ナラン然ラハ則チ此半減額ニ對スル税金ハ悉ク逃脫セル者ト看ルモ不可ナル無シ此賣買高ハ主務省ニ於テ税金ノ比例ヨリ推算セシ所ナリ

○十四番柴原和

本案ハ其關係頗ル重大ナリトス内閣委員ハ國庫ノ收入額ヲ増スヲ以テ本案ノ第一目的ト爲ス如ク說ケルモ本官ハ寧ロ此ヲ第二目的ト認ム加之本官ハ尙ホ税金ヲ減シテ賣買金高各千分ノ一ト爲サント欲ス蓋シ米商會所ハ賭博ニ類スル商業場ニシテ風俗ヲ敗リ正經ノ商業ヲ亂ル甚タ大ナルヲ以テ斷然ニ禁止ス可シト

スル議論ノ屢世上ニ紛起スルハ其毫モ第一目的タル米穀流通ノ旨趣ヲ實行スル無キヲ以テナリ本官等向キニ委員ト爲リテ米商會所條例ヲ調査セルヤ以爲ラク賭博商業ノ弊害ヲ救ヒ以テ社會ノ融通ヲ謀ルハ當局者ノ急務ニシテ彼ノ徳川氏ノ始メテ大阪堂島ニ米相場ヲ許セルハ商業上頗ル利便ヲ感セシメタルモ今日ニ當リ此賭博ニ類スル商業ヲ奉勅布告ヲ以テ公許スルハ甚タ失體ナリ因テ其提轄ハ總テ地方官ニ委任セント謀リシモ此意見ハ遂ニ行ハル能ハスシテ寢ミタリ今ヤ見ニ已ニ之ヲ公許シ而シテ其條例ノ存在スル以上ハ寧ロ宜ク一步ヲ進メテ十分ニ保護ヲ加ヘ以テ嚴密ニ提轄ヲ加フヘキナリ本官之ヲ東京商工會ノ會員ニ聞ク仲買稅實施以後ハ商況頓ニ衰微シ爲メニ種々ノ弊害ヲ起發セリト故ニ本官ハ稅額ヲ

減シテ賣買金高各千分ノ一ト爲サンコトヲ望ム東京商工會ノ調査ニ據レハ仲買稅實施以前ニハ一個月間ノ賣買平均高ハ凡ソ三百四十万石内外ニ上リシモ實施後ハ二十五万石其最少ナルハ十五万石ニ減セリ是皆密賣買ニ因由セルノミ東京米商會所ノ百有餘人ナル仲買商ハ概子資本寡薄ニシテ僅僅千圓ノ身元金ヲ有スルノミ此等仲買商ハ大抵密賣買ヲ以テ其常業ト爲スカ故ニ最モ詐術ニ熟シ之ヲ捕縛スルモ罪蹟ヲ得ル能ハス聞ク東京商工會ハ夙ニ此弊害ヲ憂ヒ頃者稅額ヲ減シテ之ヲ矯正センコトヲ政府ニ建議セントスト是レ本官ノ素論ニ合シ又能ク本案ノ旨趣ニ適セリト謂フ可シ株式取引所ノ公債證書ノ賣買モ仲買稅實施以來大ニ減少シ實施以前即チ十一年以來ハ半年季ノ賣買平均高凡ソ一億七千六百万圓ナリシモ

實施以後ハ千六百万圓ニ下レリ是又前陳ノ理由ニ異ナラス是ヲ以テ之ヲ觀レハ稅率ヲ減シテ其收入額ヲ増スヲ謀ルハ最モ適當ノ處置ト信ス然レトモ内閣委員ノ云フ如ク此改正ノ理由ヲ以テ一ニ收入額ヲ増スノ主趣ニ歸スルハ名義上甚々之ヲ好マス本官ハ人民ノ生計ニ利便ヲ與フルヲ以テ第一目的ト信スルナリ起立ノ次ニ内閣委員ニ一問ス仲買稅實施以前即チ十六年四月以前ハ米價一石ニ金五圓五十錢ト假定シ其千石ノ賣買ニ費ス所ノ手数料其他稅金口錢等ハ合計十六圓五拾錢ヲ要セシモ實施以後ニハ仲買口錢七圓五十錢會社手数料九圓及ヒ仲買稅二十七圓五十錢合セテ四十三圓ヲ費ササルヲ得ス然ルニ本案ノ米穀定期賣買ノ稅額ハ賣買各約定代金高千分ノ二ナレハ雙方合セテ千分ノ四ヲ徵スルナラン然ラハ則チ

之ヲ現行法千分ノ五ニ比較スルニ僅ニ千分ノ一ヲ減スルニ過キス
要スルニ本案ノ目的ヲ達センニハ約定代金高各千分ノ一ト爲スニ
非サレハ其効功ヲ見サルニ似タリ何如シ

○番二 男 谷 十四番ニ答シ本案ハ賣主買主ノ雙方ヨリ各千分ノ二
外 忠 友 ヲ徴ス即チ千圓ノ賣買ニハ賣主ヨリ二圓買主ヨリ二圓合セテ四圓
ヲ課税スルナリ

○十四番柴原和 現行法ノ千分ノ五トハ何如シ

○番二 男 谷 仲買人納税規則第一條ノ明文ハ「賣買雙方ヨリ各約
外 忠 友 定代金高千分ノ五ヲ納税スヘシ」ト言ヒ即チ雙方ヨリ千分ノ五ナ
ル五圓ヲ收ムルナリ

○十四番柴原和 領會ス然ラハ本案ハ現行法ノ千分ノ五ヲ千分ノ四ニ

減スルニ過キサレハ此減税方法ヲ以テ收入額ヲ増スヲ謀ラントス
ル旨意ハ得テ解ス可ラス因テ第二讀會ニ修正説ヲ提出セントス

○番二 男 谷 更ニ一辨ス本員ハ現行法ヲ解シテ各千分ノ五即チ千
外 忠 友 圓ニ雙方ヨリ合セテ十圓ヲ徴スル者ト信ス

○十四番柴原和 本官ハ特別建議ヲ爲ス第二讀會ハ定數ノ日期ヲ隔テ
テ開會センコトヲ望ム是レ蓋シ仲買人納税規則ノ第一條及ヒ本案
ノ「賣買各約定代金高千分ノ二」ナル文字ニ對スル内閣委員ノ答辨少
シク曖昧ニシテ本官モ甚タ解釋ニ惑フ因テ深ク研究シテ其義解ヲ
確メント欲ス本官ノ求メ得タル東京商工會ノ調査書ニ據ルニ一石
ノ米價ヲ五圓五十錢ト假定シ其千石ノ千分ノ五ハ即チ二十七圓五
十錢ナルコトヲ記載セリ是ニ由テ考フルトキハ仲買税ハ賣買雙方

ヨリ各千分ノ五即チ千分ノ十ヲ納ムルニ非スシテ賣主ヨリ出スモ買主ヨリ出スモ到底千圓ニ五圓ヲ納ムレハ可ナルカ如シ然ルヲ若シ内閣委員ノ再辨セシ如ク合セテ十圓ヲ納ムト爲セハ本官ハ益ス惑ハサルヲ得ス願クハ更ニ研究ヲ加ヘテ第二讀會ニ討議ヲ盡サンコトヲ

○四十八番村田保

本官ハ第三案ニ對シ二點ノ質問ヲ爲サン米商會所條例及ヒ株式取引所條例ノ罰則ニハ役員株主仲買人ノ罰例ヲ明揭ス然ラハ則チ本案第五條ハ彼ニ讓リテ足レルカ如ク而シテ本案第五條ハ一切ノ責任ヲ頭取一人ニ負擔セシメ假令事情ヲ知ラサルモ尙ホ罰例ニ罹ルヲ免レス之ニ反シテ實際ノ犯者ナル役員株主等ハ却テ倖免ヲ得ルニ似タリ又本案第一條ニ違背シ會所并ニ取引所ニ税金ヲ納メサル者ノ罰例ハ之ヲ如何スルヤ仲買人納稅規則ハ其第

十二條ニ罰例ヲ定メタルモ既ニ之ヲ廢止スル以上ハ不納者ノ制裁ヲ失フニ至ラン請フ之ヲ辨明セヨ

○番二番男谷忠友

第五條ノ罰則ニ關シテハ各議官ノ注意ヲ仰カント欲セシナリ元來極點ニ推論セハ脫稅額ノ幾倍ヲ科セント欲スルモ現行法中未タ此犯者ニ適施ス可キ明文ヲ存セス米商會所條例第十九條株式取引所條例第四十九條ハ共ニ罰例ニ係レトモ此等ハ脫稅者ニ對スル罰例ニ非ス然ルニ本案ハ單ニ收稅ヲ主眼ト爲ス者ニシテ即チ他ニ關セサル罰例ナリ然リ而シテ他ノ條例ニハ率子刑法數罪俱發例ヲ用ヒサルコトヲ示スモ獨リ米商會所株式取引所ノ二條例ハ此明文ヲ掲ケス故ニ本案ニ於ル頭取ノ責任ハ殊ニ之ヲ重カラシムルナリ況ヤ頭取ノ脫稅事犯ヲ覺知セサルノ甚タ稀ナルヲヤ又第

一條ノ税金不納ノ場合ハ十年第七十九號布告ヲ以テ處分スルナリ

○四十六番^{三浦} 十五年第六十五號布告ノ出ル無リセハ今日ノ患害

ハ之ヲ見サリシナリ然レトモ今復タ奈何トモスル能ハス故ニ本案ヲ賛成セサルヲ得ス要スルニ此三案ノ主旨タル一ハ米商ノ提轄ヲ嚴ニシ一ハ收税ノ増額ヲ謀ルニ在リ然リ而シテ其提轄ヲ嚴ナラシメハ各皆正業ニ就キ隨テ税額ヲ増スニ至ルハ自然ノ理勢ナリ因テ本案ヲ發シテ税額ヲ減シ密賣買ノ弊害ヲ矯正スルハ實ニ施策ノ得タル者トス各官ノ質問スル所ヲ聞クニ其說各同シカラス殊ニ十四番ハ仲買人納税規則及ヒ本案ノ税金ノ比例ニ關シテ内閣委員ト見解ヲ異ニセルカ如シ本官ハ十五年第六十五號布告實施前後ニ係ル税額増減ノ比較即チ米商會所株式取引所ヨリ收入スル税額ノ増減

ト三案發布後ノ收入ノ豫算トヲ問ヒ併セテ建議ス本案ニ對シテハ朝來質問頗ル繁雜ヲ極メ疑點猶ホ未タ氷解セサル者多シ因テ爲メニ全部付託調査委員ヲ置ンコトヲ望ム計算其他瑣細ノ事項ニ至テハ言語ヲ以テ訂質センヨリハ別席ニ閑坐シテ書類ヲ照査スルノ詳悉ヲ得ルニ如カス願クハ此建議ニ決センコトヲ

○十四番^{柴原} 四十六番ノ調査委員ヲ設クル建議ハ少シク鄭重ニ過

クルカ如シ本官ハ素ヨリ本日ヲ以テ第二讀會ヲ續開センコトヲ望メトモ奈何セン文字ノ解釋未タ明亮ヲ得ス且ヤ税金モ千分ノ一ト爲サント欲スレハ討論未タ盡キサルモ午飯ノ爲メニ一旦散會センコトヲ望ム因テ更ニ此事ヲ建議ス

○議長 時晷己ニ午ヲ過キタルヲ以テ午餐ノ爲メニ散會セン

午後零時二十分開場

午後第一時十五分開場

退席

三番

東久世通禧

同

六番

海江田信義

同

八番

岩下方平

同

十一番

安藤 則命

同

十三番

林 友幸

同

十七番

野村 素介

同

四十二番

久我 通久

同

四十五番

町田 久成

同 同

四十七番

鷺尾 隆聚

四十八番

村田 保

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○二十七番井田

四十六番ノ建議ヲ賛成ス午前ニ内閣委員ハ本官ノ

質問ニ答ヘテ本案ノ主眼ハ一方ニハ稅率ヲ減シ一方ニハ流通ヲ疏
スルニ存スト云ヘリ流通ヲ疏スルハ本官輩モ素ヨリ希望スル所ナ
レトモ此事タル果シテ全國ノ人民ニ利スルヤ否ヤハ深思熟慮セサ
ル可ラス想フニ本案ヲ發スルトキハ空米相場愈ヨ熾盛ヲ加ヘ亂高
下モ隨テ大ナラン例ヘハ姦商ノ實米數十萬石ヲ有ストセンニ之ヲ
賣ント欲スルニハ先ツ空米相場ヲ以テ多ク米穀ヲ買ハン然ルトキ
ハ米價ハ頓ニ騰昂スルヲ以テ空米相場ニハ小損ヲ致スモ實米ヲ賣

三十二
三十四

リテ大利ヲ收ムルヲ得ントス本年ハ昨年ニ比スレハ米穀豐饒ナルニ其價直ハ却テ貴シ是レ決シテ自然ノ數ニ出ルニ非ス前陳ノ如ク一二姦商ノ作略ニ成レルヲ知ルナリ若シ一石五圓ノ米價ノ昂リテ六圓ト爲ルトキハ小賣ニハ一圓ニ二三合ノ差ヲ生スルヲ以テ細民ハ困難ヲ被ラン其レ然リ本案ヲ發セハ空米相場ハ愈ヨ滋増シ隨テ前陳ノ如キ患害ヲ長スルモ知ル可ラス然レハ則チ救濟ノ方途モ亦豫メ講究スルヲ要ス是レ過刻本官ノ將來多ク各地方ニ相場會所ノ開設ヲ許スヤ否ヤヲ内閣委員ニ質シタル所以ニシテ即チ大ニ意見ノ在ル有ルヲ以テナリ今日ノ如ク相場會所ノ僅少ナルトキハ米穀ノ相場ハ姦商ノ左右スル所ト爲ルヤ疑ヲ容レス故ニ本官ハ本案ノ下付ヲ好機ト做シテ充分ニ是等ノ利害得失ヲ調査セント欲ス本案

縱ヒ急施ヲ要スト云フモ本官輩ニ假スニ尙ホ數日ノ餘暇ヲ以テシ充分ニ調査ヲ加ヘ然ル後チ本案ヲ議スルヲ望ム加之各位モ知ル如ク現行法ニ關シテ十四番ト内閣委員トノ見解ヲ異ニセル如キ是亦調査ヲ要スルヲ以テ愈ヨ四十六番ノ建議ノ行ハルルヲ企翹ス

○二十二番 渡邊清

本官ハ第四百九十六號議案第四百九十七號議案ハ

共ニ之ヲ是認ス蓋シ第四百九十六號議案ハ各官モ是認セル者ノ如シ又第四百九十七號議案ハ唯其大藏農務兩卿ノ認可ノ點ニ關シテ或ハ異議ヲ見ルニ似タルノミ畢竟此第四百九十七號議案ノ骨子タル現行ノ仲買稅ハ重キニ過ク故ニ改正セサル可ラスト云フニ存シテ敢テ大體ニ關係セル者ニ非ス又十四番ハ現行法ノ稅率ニ關シ内閣委員ト見解ヲ異ニスト云フモ「賣買雙方ヨリ各約定代金高千分

ノ五ト言ヘハ讀テ字ノ如ク賣買約定代金ノ千分ノ五ヲ賣買者雙方ヨリ出スニ在ルハ明瞭ナリ十四番ハ東京商工會ノ書類ヲ援テ其然ラサルヲ辨スルモ果シテ其說ノ如クシハ官府モ納稅者モ俱ニ誤レリト謂フ可シ畢竟本案ヲ發シ而ル後チ實際ノ措施ニ任スルハ行政官ノ在ル有リ本官輩ハ惟タ其改正ノ可否ノミヲ議決セハ則チ可ナルノミ故ニ本官ハ特ニ調査委員ヲ置クヲ要セスト信スルナリ

○番二番男谷忠友 本員ハ頗ル時機ヲ失シタレトモ四十六番ノ午前ノ質問ニ對シテ答辨セン其質問ハ仲買稅實施以前ト實施以後トノ賣買額ニ對スル稅金ノ多寡ニ在リ明治十五年前半季即チ自七月至十二月米商會所ノ稅金ト株式取引所ノ稅金トニ係ル調査書類ニ據テ推算スルニ十五年中米商會所ノ納稅金ハ十三萬二十七圓六十八錢ニ

シテ手數料ハ三十二萬五千六十九圓二十錢ナリ當時ノ稅金ハ賣買高ノ萬分ノ八ニシテ手數料ノ十分ノ四ト爲シ手數料ハ賣買高ノ千分ノ二ナレハ是ニ據テ推算スルニ其年ノ賣買高ハ一億六千二百五十三萬圓餘ナリ又株式取引所ノ納稅金ハ五萬七千五百五十三圓七十八錢ニシテ即チ賣買高ノ萬分ノ二ナレハ是ニ據テ推算スルニ其年ノ賣買高ハ二億八千萬圓餘ナリ以上ハ仲買稅實施以前ノ計算ニ係ル其實施以後ハ米商會所ノ稅金ハ賣買高ノ千分ノ五、二三一ナレハ千圓ニ對シ五圓二十三錢一厘ノ比例ニシテ株式取引所ノ稅金ハ賣買高ノ千分ノ一、零九ナレハ千圓ニ對シ一圓九錢ノ比例ナリ是レ大藏省ノ報告書ニ據テ調査セル所トス質疑者請フ之ヲ領セヨ

○二十七番井田讓 二十二番ノ言ハ要スルニ本案ノ主眼ノ惟タ減稅ノ

ミニ存スルヲ以テ大體ノ可否ヲ論スルハ權限外ニ屬スト云フニ在ルカ如シ單ニ減稅ト云ヘハ些事ニ似タルモ原來稅額ヲ増減スルハ人心ニ影響スル至テ大ナリ本案果シテ米價ニ影響ヲ及ホス無レハ則チ可ナルモ稅金ヲ低減スルトキハ空米相場ハ愈ヨ熾盛ヲ加ヘ因テ以テ頻頻ニ實米相場ニ大高低ヲ生セン我國ニ在テハ米價ハ經濟ノ基本タレハ其頻頻ニ大高低ヲ生スルハ最モ懼レサル可ラス故ニ今回ノ減稅タル果シテ一國ノ經濟ニ裨益ヲ致ス歟將タ紊亂ヲ致ス歟又現行法ノ如ク禁止稅ニ似タル重稅ヲ課スル得失何如ハ宜ク精細ニ稽查スヘキナリ決シテ二十二番ノ如ク輕輕ニ看過ス可キニ非ス故ニ四十六番ノ建議ノ行ハルルヲ望ム

○十四番柴原和 二十二番ハ本官ノ午前ニ陳辨セシ論旨ヲ駁シテ賣買

各約定代金千分ノ五ト言ヘハ讀テ字ノ如ク賣買者雙方ヨリ約定代金ノ千分ノ五ヲ徵スルニ在ルヤ明瞭ナリト云フモ各約定トハ本官ハ讀テ約定毎ニト解スルヲ以テ賣買高ノ千分ノ五ヲ徵スル者ト信スルナリ且ヤ東京商工會ノ書類ヲ援キタルハ本官ノ現行法ヲ解スル彼カ如ク且其實際ノ處置モ亦此ノ如シト云フヲ證スルカ爲メナリ故ニ若シ內閣委員ニシテ主務省ノ調查書類ヲ示シ賣買者雙方ヨリ千分ノ五ヲ徵スル明證ヲ舉ケハ本官ハ何ソ敢テ之ヲ疑ハン且徑ニ第二第三讀會ヲ開クヲ善シトスルモ內閣委員ノ本日之ヲ證明スル能ハスト云ヘルヲ以テ第二讀會ハ他日ニ讓ルヲ欲スルノミ調査委員ヲ設クル一事ニ關シテハ本官モ二十二番ト意見ヲ同ウス本案ハ米商會所株式取引所ノ廢置如何ニ係ル法案ニ非スシテ其主眼タ

ル惟タ稅率ヲ減降シ以テ政府ノ收入ヲ増加セントスルニ過キサレ
ハ特ニ調査委員ヲ設クルヲ須ヒス要スルニ第四百九十六號第四百
九十七號ノ二議案ハ本官モ其大體ヲ是認スル所ニシテ彼ノ約定代
金ニ關スル一疑點ノ瞭解スルヲ得ハ速ニ之ヲ議定スルヲ可ナリト
ス

○議長 發議已ニ盡キタリト認ルヲ以テ先ツ四十六番ノ建議ノ決ヲ
取ン調査委員ヲ設クル建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長 少數ナルヲ以テ四十六番ノ建議ハ消滅ス此ニ第一讀會ヲ畢
ル明後十九日ヲ以テ第二讀會ヲ開カン本日ハ散會セヨ

午後第二時閉場

元老院會議筆記 明治十八年十一月二十日

禁傍聽

○第四百九十七號議案 米商會所條例中改正ノ儀、株式取引所條例
中改正ノ儀、米商會所并株式取引所稅制定

儀ノ第二讀會

議長 東久世
通禧

出席議員

- 一番 伊丹 重賢
- 二番 小畑 美稻
- 三番 佐野 常民
- 五番 榎村 正直
- 六番 海江田信義
- 九番 長松 幹

十一番	安藤 則命
十二番	楫取 素彦
十三番	林 友幸
十四番	柴原 和
十六番	箕作 麟祥
十八番	田中 芳男
十九番	神田 孝平
二十番	壬生 基修
二十二番	渡邊 清
二十三番	大給 恒
二十四番	黒田 清綱

二十五番	福原 實
二十六番	西村 貞陽
二十八番	岩村 定高
二十九番	橋口 兼三
三十番	伊集院兼寛
三十一番	鍋島 直彬
三十三番	上杉 茂憲
三十五番	由利 公正
三十六番	楠本 正隆
三十七番	河田 景與
三十八番	細川潤次郎

- 三十九番 津田 眞道
- 四十二番 久我 通久
- 四十六番 三浦 安
- 四十八番 村田 保
- 四十九番 大久保一翁
- 五十番 官本 小一
- 五十一番 田邊 太一
- 五十二番 永山 盛輝
- 五十三番 長岡 護美
- 五十四番 大鳥 圭介
- 五十六番 神山 郡廉

内閣委員番外参事院議官補男谷 忠友

午前第十時開場

○議長 本日ハ第四百九十七號議案ノ第二讀會ヲ開ク議長ハ演述ヲ要スル意見アリ議官席ニ就キシヲ以テ本官代テ此席ヲ保ツ

書記官森山茂 朗讀

布告案

明治九年八月第百五號布告米商會所條例第十一條及第十五條第一節左ノ通改正シ 年 月 日ヨリ施行ス

○三番佐野常民 今ヤ下付原案ノ第二讀會ヲ開クニ際シ各位ノ參考ニ供スル爲メニ聊カ本官ノ意見ヲ開陳セン元來此法案ハ米商會所ノ存廢ニ關スル如キ大體ノ利害ニ涉ルニ非サルモ亦決シテ輕視ス可ラ

サル者トス前キ嘗テ明治十五年第六十五號布告ヲ以テ米商會所及ヒ仲買人ノ稅率ヲ改正シタルニ爾來此重稅ヲ逃避スル爲メニ米商會所外ニ於テ密賣買ヲ爲スノ弊患ヲ生シタルハ農商務大藏兩卿ノ內閣ニ上申セル者ノ如ク而シテ是レ各位モ知悉スル所トス今此弊患ヲ防制セン爲メニ本案ヲ發シテ稅額ヲ輕減シ犯則者ヲ驅リテ之ヲ米商會所ニ入レ以テ正當ノ賣買ヲ爲サシメント欲ス此亦已ムヲ得サルノ措置ト謂フ可シ然ルニ本官ハ別ニ深ク憂懼スル所ノ者アリ即チ彼ノ大學或問ニ云ヘル虎ニ遇フヲ話スルノ一說ト相似タルナリ蓋シ人ノ虎ニ遇フヲ話スルヲ聞キ瞿然トシテ懼レ身戰キ色變スル者ハ嘗テ實ニ虎ニ攫セラレントセシ人ナリ請フ本官ノ嘗テ實ニ投機者ナル獐虎ニ噬レントシタル實況ヲ舉述セン抑モ米商會所

ノ賣買ハ皆是レ實米ヲ以テスルニ非ス所謂ル空米相場ナリ但タ賣買ノ間ニ相場ノ高低ヲ致シ已ムヲ得サルノ機ニ臨ミ百万石中ノ一万石又ハ數千石ノミ實米ノ取引ヲ爲スニ過キス前者本官ノ乏ヲ大藏卿ニ承ケシ日ニ在ルヤ多キハ一月内ニ空米四百万石ノ賣買額ニ上ホリシモ實米ヲ授受スルハ僅ニ數千万石ニ過キス其相場ハ實米ノ河岸相場トハ全ク別物ニ屬シ河岸ノ相場ハ却テ常ニ會所ノ相場ニ牽掣セララルニ至ル而シテ明治十二年ノ末尾ヨリシテ漸次ニ紙幣ト銀貨トニ間差ヲ生シ十三年ニ至テハ銀貨ハ騰昂シテ一圓六十錢内外ニ米價ハ十二圓餘ト爲レリ試ミニ米一石ノ時價ヲ六圓ト爲シ銀貨紙幣ノ間差ニ因テ比例ヲ立レハ米價ハ九圓餘ニ在ル可キニ却テ三圓ノ高價ヲ増セリ是レ實ニ投機者ノ空米相場ニ鼓動セラレ